ThinkVantage System Migration Assistant 5.1

ユーザーズ・ガイド

ThinkVantage System Migration Assistant 5.1

ユーザーズ・ガイド

注: 本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 91 ページの『付録 D. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

第1刷 2006.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財) 日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

目次

図

本書について

本書は、ThinkVantage® System Migration Assistant (SMA) 5.1 のインストールと使用について説明しています。

本書の構成

1 ページの『第 1 章 System Migration Assistant の紹介』 では、SMA の概要と機能を紹介します。

9 ページの『第 2 章 SMA のインストールとアンインストール』 では、SMA のインストールとアンインストールの手順を示しています。

15 ページの『第 3 章 GUI を使用した移行の実行』では、SMA グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して標準移行を実行する方法を説明しています。

67 ページの『第 4 章 拡張管理トピック - GUI のカスタマイズ』は、GUI のカスタマイズの方法について説明します。

75 ページの『付録 A. 移行可能なアプリケーション設定』には、サポートされるアプリケーションと移行が可能な設定の詳細リストを記載します。

85 ページの『付録 B. トラブルシューティング』は、移行するときに起こりうる問題に対する解決策を説明します。

89 ページの『付録 C. ヘルプおよび技術援助の入手』には、ヘルプおよび技術支援を受けるための ThinkVantage Support Web サイトへのアクセスについての情報が含まれています。

91 ページの『付録 D. 特記事項』には、製品の特記事項を記載しています。

93 ページの『付録 E. 商標およびライセンス』には、本書で使用される商標がリストされています。

本書で使用している注記

本書では、重要情報を強調して示すために以下のような注記を使用しています。

- **注:** この注記は、重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。
- **重要:** この注記は、不便な状態または困難な状態を回避するのに役立つと思われる情報またはアドバイスを提供します。
- **アテンション:** この注記は、プログラム、装置、またはデータに損傷が生じる可能性があることを示します。損傷の発生につながる可能性のある手順または状態の直前に、この「アテンション」の注記が挿入されます。

本書で使用している構文規則

本書での構文は、以下の規則に準拠しています。

- コマンドは小文字で示される。
- 変数はイタリックで示され、そのすぐ後に説明が続く。
- オプションのコマンドまたは変数は、大括弧で囲まれる。
- 複数のパラメーターのうちの 1 つを入力する必要がある場合、それらのパラメーターは垂直バーで分離される。
- デフォルト値には下線が引かれる。
- 反復可能パラメーターは、中括弧で囲まれる。

ワールド・ワイド・ウェブの ThinkVantage System Migration Assistant リソース

以下の Web ページは、SMA とシステム管理ツールを理解、使用、およびトラブルシューティングするためのリソースを示しています。

ThinkVantage System Migration Assistant 5.1 ホーム・ページ

http://www.lenovo.com/think/support/site.wss/document.do?sitestyle=lenovo&lndocid=MIGR-50889

最新の SMA ソフトウェアおよび資料をダウンロードする場合に、この Web ページにアクセスします。

ThinkVantage Personal Computing Support - ThinkVantage Technologies ページ

http://www.lenovo.com/think/support/site.wss/document.do?sitestyle=lenovo&lndocid=TVAN-START

ThinkVantage Technologies の情報を検索する場合に、この Web ページを参照します。

ThinkVantage Personal Computing Support ページ

http://www.lenovo.com/think/support

ThinkVantage Personal Computing Support の Web サイトにアクセスする場合に、この Web ページに進みます。

第 1 章 System Migration Assistant の紹介

System Migration Assistant (SMA) は、以下のような「*作業環境*」を移行する場合に使用できるソフトウェア・ツールです。

- オペレーティング・システム設定 (たとえば、デスクトップおよびネットワーク接続設定)
- ファイルとフォルダー
- カスタマイズされたアプリケーション設定 (たとえば、Web ブラウザーのブックマーク、Microsoft® ワードの編集設定)
- ユーザー・アカウント

ユーザーは SMA を使用して、コンピューターをバックアップしたり、設定とファイルを 1 つのコンピューター・システムから別のコンピューター・システム (たとえば、デスクトップ・コンピューターからモバイル・コンピューター (ノートブック)) に移行したりできます。

SMA の機能

SMA は、コンピューターの作業環境のスナップショットを取ることから開始します。次に、このスナップショットを原画として使用して、作業環境を別のコンピューターに複写します。 SMA がスナップショットを取るコンピューターはソース・コンピューター です。スナップショットが複写されるコンピューターはターゲット・コンピューターです。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、物理的に別々の場所に設置することもでき、さらにそれぞれ異なる時間帯にあってもかまいません。 SMA を使用して設定とファイルをバックアップまたは復元すると、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、同一コンピューターにすることができます。

SMA は、次の 3 つのフェーズに分けてコンピューターの作業環境を別のコンピューターに移行します。「*取り込み*」フェーズ (すべてのユーザーが行う)、「*適用*」フェーズ (ローカル管理者としてログオンしているユーザーが行う)、および「*遅延適用*」(管理者特権を持たないユーザーが行う)。

移行には、「*簡易移行*」および「*カスタム移行*」の 2 つの方法があります。どちらの方法もグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して実行することができますが、簡易移行はすべてのユーザーにお勧めする移行タイプです。カスタム移行は移行する設定を選択することが可能で、IT 管理者向けです。カスタム移行の詳細については、「*ThinkVantage System Migration Assistant Deployment Guide*」を参照してください。

ユーザーが 1 人の場合に行う簡易移行の*取り込みフェーズ* では、以下の項目がソース・コンピューターからコピーされます。これらの項目は事前に選択されており、その選択を解除することはできません。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定

- アプリケーション設定

「ファイルとフォルダー」もコピー可能です。これらの設定とファイルは、PC から PC への接続を介してターゲット・コンピューターに直接移行されます。

「*適用フェーズ*」では、取り込み済みの設定とファイルが SMA によりターゲット・コンピューターに適用されます。取り込み済みの設定のすべてを適用することも、適用する設定を指定することもできます。

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*取り込みフェーズ*では、ソース・コンピューターから以下の項目を選択およびコピーすることができます。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定
- アプリケーション設定
- ファイルとフォルダー
- バックグラウンド・ユーザーのユーザー・プロファイル

これらの設定およびファイルは、SMA 移行ファイルに保存されます。

管理者としてログオンしているユーザー、および移行時にログオンしていないその他のバックグラウンド・ユーザーが行う「カスタム移行」の*適用フェーズ* では、SMA で以下の 2 つのタスクが行われます。

- 移行ファイルをターゲット・コンピューターの管理者ユーザーに適用する。この場合、移行ファイル全体を適用するか、移行ファイルの中から適用するコンポーネントを指定するかを、ユーザーが選択できます。
- 他のユーザーのために遅延適用タスクの準備をする。

管理特権を持たないユーザーが初めてコンピューターにログオンすると、そのユーザーのプロファイルの設定は自動的に適用されます。

システム要件

このセクションでは、ハードウェアおよびユーザー・アカウントの要件と、サポートされるオペレーティング・システムについて記載します。さらに、移行シナリオについても説明します。

ハードウェア要件

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターは、以下の条件を満たしていなければなりません。

- SMA がサポートする Microsoft Windows® オペレーティング・システムがインストール済みである。
- ハード・ディスクに、SMA インストール・ファイル用に 40 MB の空きスペースがある。

- ソース・コンピューターのハード・ディスクに、取り込みフェーズで作成される一時ファイルを入れるための十分なフリー・スペースがある。必要なディスク・スペースは、作成される SMA 移行ファイルのサイズによって異なります。
- ターゲット・コンピューターが SMA 移行ファイルにアクセスできる。この場合、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)、リムーバブル・ディスク (ZIP ディスクなど)、またはイーサネット・クロスケーブルを使用することができます。
- PC から PC への移行の場合、ターゲット・コンピューターのディスク上には、移行ファイルの合計サイズと同等のフリー・スペースが必要です。
- ファイル転送による移行の場合、ソース・コンピューターのディスクには、移行ファイルの合計サイズの 2 倍のフリー・スペースが必要です。

サポートされるオペレーティング・システム

SMA 5.1 は、以下のオペレーティング・システムにインストールできます。

- Windows 98 (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows 98 Second Edition (SE) (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows NT® Workstation 4.0 SP6a (取り込み操作のみ。適用操作には使用できません)
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Home
- Windows XP Professional
- Windows XP Tablet PC Edition 2005

これ以降の説明では、Windows 98 と 98 SE を Windows 98 と呼びます。Windows XP Home、Windows XP Tablet PC Edition 2005, および Windows XP Professional を Windows XP と呼びます (ただし、各ペアの 2 つのオペレーティング・システム・バージョンを区別しなければならない場合を除く)。

注:

1. ユーザー・プロファイルの移行は、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional、Windows XP でサポートされます。
2. Windows 98 では、SMA は現在ログオンされているユーザーの作業環境のみを移行できます。
3. Windows 98 では、マルチユーザー・プロファイルの移行はサポートされていません。
4. SMA 5.1 は Microsoft Internet Explorer 5.0 以降をサポートします。

サポートされる移行シナリオ

表 1 に、各オペレーティング・システムに対する有効な移行シナリオを示します。

表 1. SMA の紹介: サポートされる移行シナリオ

ソース・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム	ターゲット・コンピューターで稼働するオペレーティング・システム			
	Windows 2000 Professional	**Windows XP Home**	**Windows XP Professional**	**Windows XP Tablet PC Edition 2005**
Windows 98	はい	はい	はい	いいえ
Windows 98 SE	はい	はい	はい	いいえ
Windows NT 4.0	はい	いいえ	はい	いいえ
Windows 2000 Professional	はい	いいえ	はい	はい
Windows XP Home	いいえ	はい	はい	はい
Windows XP Professional	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows XP Tablet PC Edition 2005	いいえ	いいえ	はい	はい

ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターでは、同じ言語で Windows を実行している必要があります。 SMA は、Microsoft Windows の 64 ビット・バージョンとの互換性はありません。

SMA 5.1 の新機能

SMA 5.1 には、以下の新機能と改善機能が含まれます。

- 新しく使いやすいグラフィカル・ユーザー・インターフェース
  - PC から PC への移行に対してのファイヤーウォール警告
  - SMA GUI ウィンドウのサイズ変更機能
  - イーサネット接続を介して、ターゲット・コンピューターからソース・コンピューターへ SMA をインストールする機能
- Windows XP Tablet PC Edition 2005 の固有の設定を移行する機能
- 以下のアプリケーションのサポート:
  - Lotus Notes バージョン 7.0
  - ThinkVantage Client Security Solution バージョン 7.0
  - ThinkVantage System Update
  - ThinkVantage Rescue and Recovery バージョン 3.1

前のリリースからのアップグレード

SMA 5.1 には SMA 4.2 または SMA 5.0 からのアップグレードが可能です。 SMA 5.1 をインストールする前に、古いバージョンの SMA をアンインストールする必要はありません。

SMA 5.1 移行ファイルのデータ・フォーマットは SMA 4.x 以前のバージョンと互換性がありません。 SMA 4.x によって取り込まれた SMA プロファイルは、SMA 5.1 では適用できず、その逆もまた同様です。

SMA 5.0 移行ファイルは SMA 5.1 で適用可能ですが、 SMA 5.1 移行ファイルは SMA 5.0 では適用できません。

ユーザー・アカウントの要件

SMA がサポートするすべての設定を移行するには、ソースおよびターゲットの両コンピューターに管理特権を持つアカウントでログオンする必要があります。

表 2 は、それぞれのユーザー・アカウントごとに移行可能なタイプと移行可能な設定を示します。

表 2. それぞれのユーザー・アカウントごとに移行される、有効な移行タイプと設定

ソースおよびターゲット両コンピューター上のユーザー・アカウントのタイプ	移行のタイプ		設定	
	マルチユーザーの移行	PC から PC への移行	システム設定	個人用設定
管理者	はい	はい	はい	はい
パワー・ユーザー	いいえ	はい	はい[1]	はい
制限ユーザー	いいえ	いいえ	いいえ	はい

[1]パワー・ユーザー・アカウントとしてログオンしたユーザーには、次のネットワーク設定は移行できません。

- TCP/IP 構成
- ネットワーク識別
- 共用フォルダー/ドライブ

マルチユーザー・プロファイルを同時に移行する、またはシステム設定を移行するためには、ソースおよびターゲットの両コンピューターに管理特権を持つアカウントでログオンする必要があります。マルチユーザー移行の詳細については、『マルチユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。

PC から PC への移行を実行するためには、管理特権またはパワー・ユーザー特権を持つアカウントとしてログオンします。

デスクトップ設定のような個人用設定を移行するためには、あるいは、たとえば C:¥Documents and Settings¥*username* のようなユーザー・プロファイルのパスのファイルを移行するためには、制限ユーザー特権を持つアカウントとしてログオンできます。

遅延適用フェーズでは、プロファイルが移行されているユーザーは、ローカル管理者アカウント、ローカル制限ユーザー・アカウント、またはドメイン・クライアント・ユーザー・アカウントを使用してターゲット・コンピューターにログオンできます。

マルチユーザー・プロファイルの移行

マルチユーザー移行には、3 種類のユーザー・アカウントが関係しています。

1. フォアグラウンド・ログオン・ユーザー

移行時にコンピューターにログオンしているユーザー。このユーザーは管理特権を持つ必要があります。SMA はこのユーザー・アカウントから起動する必要があります。

このユーザー名は、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」の 1 つとして表示されます。このチェック・ボックスは常時選択されており、クリアすることはできません。

2. バックグラウンド・ローカル・ユーザー

   現在ローカル・コンピューターにログオンしていない、ローカル・コンピューターのユーザー・アカウント。それらは、管理特権を持たない一般ユーザー・アカウントの場合があります。

   これらのユーザーは、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」として表示されます。

3. バックグラウンド・ドメイン・ユーザー

   現在ローカル・システムにログオンしていない、ネットワーク・ドメインでのユーザー・アカウント。ドメイン・コントローラーはそれらのアカウント情報を制御し、ローカル・クライアント PC はそれらのプロファイル情報を所有しています。

   これらのユーザーは、ローカル・コンピューターの「GUI ユーザー・プロファイル」パネルに「ネットワーク・ユーザー」としてリストされます。また、コントローラー PC のローカル・ポリシーでユーザーがローカルでコントローラー PC にログオンできるように指定されている場合は、ドメイン・コントローラーの「GUI ユーザー・プロファイル」パネルに「ローカル・ユーザー」としてリストされます。
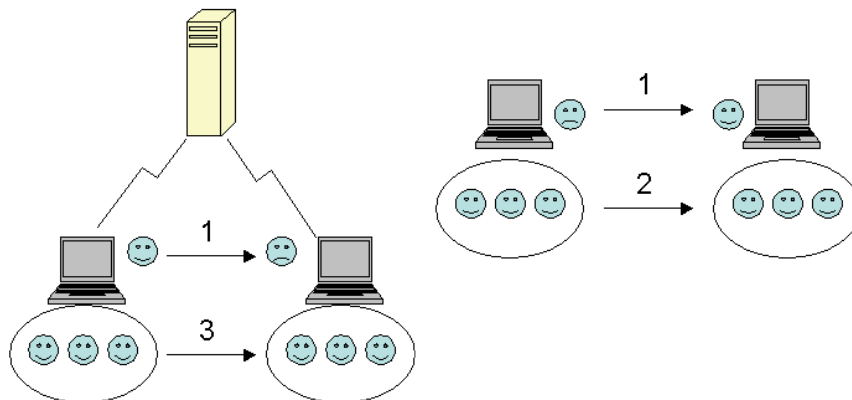
図 1. System Migration Assistant の紹介: マルチユーザーの移行

ソースおよびターゲットの両コンピューターにログオンしているフォアグラウンド・ログオン・ユーザーの移行方法については、15 ページの『第 3 章 GUI を使用した移行の実行』を参照してください。

バックグラウンドのローカルまたはドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、「*ThinkVantage System Migration Assistant 5.1 Deployment Guide*」を参照してください。

マルチユーザー・プロファイルの移行には以下の制約事項が適用されます。

- ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのログオン・ユーザー名が一致していないと、バックグラウンド・ユーザー用の設定は移行されません。ログオン・ユーザー用の設定のみが移行されます。
- 実行しているアカウントは、ローカル・コンピューター上の管理者アカウントである必要があります。 SMA はドメイン・ユーザー・アカウントでは使用できません。
- 設定を適用するには、ドメイン・コントローラーがネットワーク上で認識されることが必要です。検索のためには、ドメイン・ユーザーが PDC になければなりません。
- ローカル・ユーザーの PC から PC への移行の場合はクロスケーブルを使用できますが、ドメイン・ユーザーの移行には使用できません。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルを適用するには、まずネットワーク・ドメイン設定を移行する必要があります。詳しくは、ステップ 34 (30 ページ) を参照してください。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルの一部の設定のみを移行し、設定のすべてを移行しない場合は、ローミング・ユーザー・プロファイルを選択しないでください。これを選択すると、デフォルトですべての設定が移行され、選択内容が指定変更されてしまいます。
- バックグラウンド・ローカル・ユーザーまたはドメイン・ユーザーのユーザー・プロファイルを移行する前に、ターゲット・コンピューターに、移行対象のものと同じ名前のユーザー・アカウントとフォルダーが存在していないか確認してください。特に、「C:¥Documents and Settings」フォルダーを確認してください。
- DBCS 文字を使用するアカウント名のバックグラウンド・ユーザーを移行する場合、ターゲット・コンピューターに新たに作成したユーザー・アカウントのログオン・パスワードは、「Passw0rd」で大/小文字の区別をします。

注: 移行ファイルはターゲット・コンピューターのローカル・ハード・ディスク上に置く必要があります。別の場所に保存すると、バックグラウンド・ローカル・ユーザーまたはバックグラウンド・ドメイン・ユーザーの設定が、遅延適用フェーズで正しく適用できません。 SMA では、ネットワーク・ドライブや取り外し可能メディア・ドライブにある移行ファイルは見つけられません。これらのドライブは、ユーザーがコンピューターにログオンした直後は使用準備ができていない可能性があるためです。

移行の方法

ソースおよびターゲット・コンピューターを LAN 経由で、あるいはイーサネット・ケーブルで直接接続することにより、または取り外し可能ストレージ・デバイスを使用することにより移行を行うことができます。

PC から PC への移行

PC から PC への接続を使用して、移行ファイルをソース・コンピューターから直接ターゲット・コンピューターに転送できます。 PC から PC への移行は、ソース・コンピューターに移行ファイルを保存する空きディスク領域が十分に確保できない場合に有効です。また、この移行では、実行するステップがファイル転送による移行の場合よりも少なくて済むため、時間も節約できます。

PC から PC への接続のセットアップ

PC から PC への移行を行うには、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターの両方にネットワーク・インターフェース・カード (NIC) が装備されている必要があります。TCP/IP プロトコルが使用可能に設定され、両方のコンピューターが同じローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 内のノードであることも必要です。

まず、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターを接続します。以下のいずれかの接続オプションを使用することができます。

LAN を介して

イーサネットまたはトークンリングのいずれかを使用できます。トークンリングを使用する場合は、Windows 2000 と Windows XP がサポートされます。

イーサネット・ケーブル

イーサネット・クロスケーブルを使用して、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューター間の直接接続を作成することができます。いずれかのコンピューター (ターゲットまたはソース、あるいは両方でも可) にギガビット・イーサネット・カードが装備されている場合は、PC から PC への接続に、通常のイーサネットのストレート・ケーブルを使用することもできます。この場合、必ず両方のコンピューターの IP アドレスが同じネットワークを指定していることを確認してください。 Windows 2000 と Windows XP では、IP アドレスは自動的に発行されます。 Windows 98 と Windows NT 4.0 では、IP アドレスを手動で入力しなければなりません。

ファイル転送による移行

ファイル転送による移行では、ネットワーク接続を確立せずに移行を行うことができます。この場合、移行ファイルの保存用に、USB ハード・ディスクなどの、十分なフリー・スペースを持つ取り外し可能メディアが必要です。ファイル転送による移行は、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターが別の場所にあり、相互のネットワーク接続を確立することが不可能な場合に便利です。

第 2 章 SMA のインストールとアンインストール

この章では、SMA のインストールとアンインストールについて説明します。

SMA 5.1 のインストール

SMA のインストールには、次の 2 つのタイプがあります。

- **標準インストール**: SMA の標準インストールを実行するには、まず管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してローカル側からコンピューターにログオンし、そのコンピューターからインストールを実行する必要があります。
- **サイレント・インストール**: ユーザーが対話を行わずに SMA をインストールする場合は、ネットワークで接続された環境にログオンし、SMA を 1 台以上のコンピューターにインストールします。サイレント・インストールは、通常リモート側で実行します。

標準 SMA インストールの実行

SMA をインストールするには、次のようにします。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してコンピューターにログオンします。
2. SMAsetup.EXE プログラムを実行します。
3. SMA の「ようこそ」ウィンドウが開きます。

図 2. 標準 SMA インストールの実行: 「SMA ようこそ」ウィンドウ

4. 「次へ」をクリックします。「使用許諾契約」ウィンドウが開きます。「使用許諾契約の条項に同意します。」を選択します。
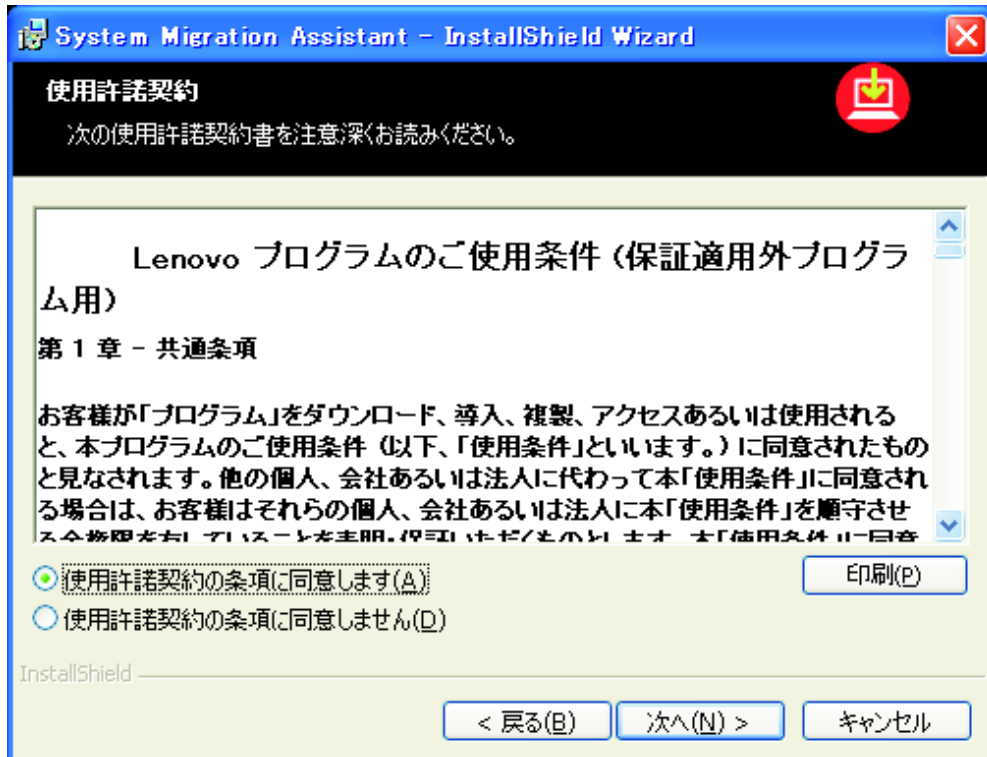
図 3. 標準 SMA インストールの実行: 「使用許諾契約」ウィンドウ

5. 「次へ」をクリックします。「インストール先のフォルダー」ウィンドウが開きます。

6. デフォルトでは、SMA が *d*:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA にインストールされます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。SMA を別の場所にインストールするには、「**変更**」をクリックした後、代替フォルダーを選択します。

図 4. 標準 SMA インストールの実行: 「インストール先のフォルダー」ウィンドウ

7. 「**次へ**」をクリックします。「プログラムをインストールする準備ができました」ウィンドウが開きます。
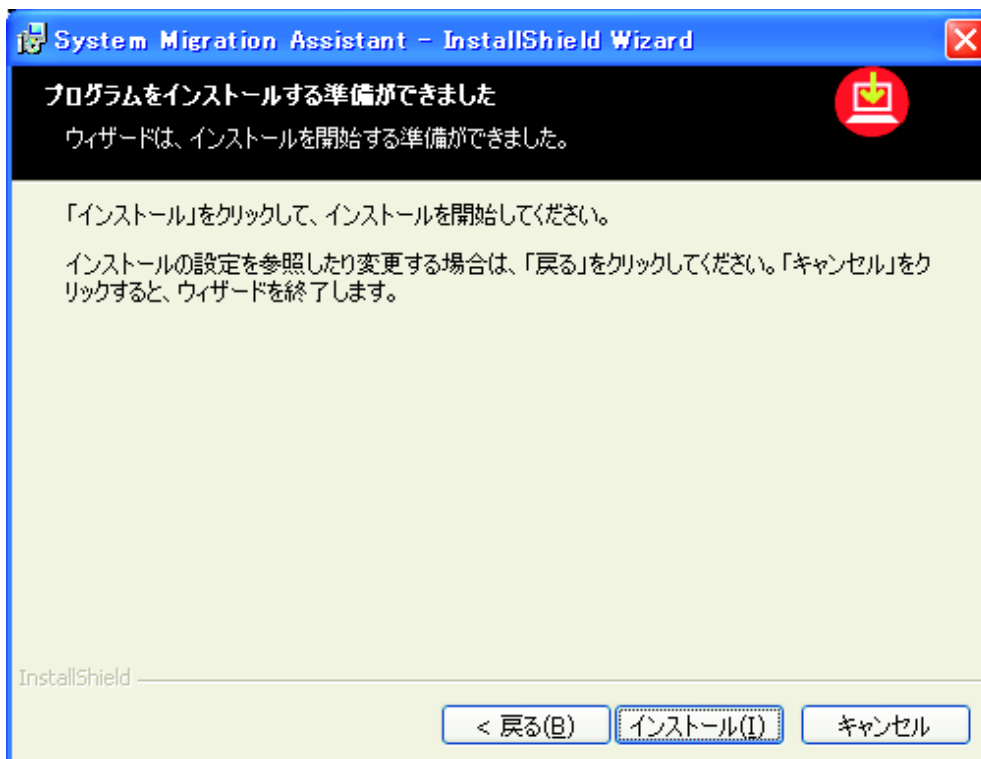
図 5. 標準 SMA インストールの実行: 「プログラムをインストールする準備ができました」ウィンドウ

8. 「**インストール**」をクリックします。

注: SMA のインストールでは、更新済みダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) ファイルが必要になる場合があります。ご使用のコンピューターに更新済み DLL ファイルがない場合は、その旨を通知するウィンドウが開き、インストールを完了するために必要なステップが示されます。

9. InstallShield ウィザードによって SMA がインストールされると、「InstallShield ウィザードを完了しました」ウィンドウが開きます。

図 6. 標準 SMA インストールの実行: 「InstallShield ウィザードを完了しました」ウィンドウ

10. 「完了」をクリックします。

サイレント SMA インストールの実行

コマンド・プロンプトからの SMA のインストール

SMA をコマンド・プロンプトからインストールする場合は、次のようにします。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用して、SMA のサイレント・インストールを実行するコンピューターにログオンします。
2. SMAsetup.EXE をコンピューターにコピーし、SMAsetup.EXE がコピーされたディレクトリーに移動します。または、SMAsetup.EXE が保存されているネットワーク・ディレクトリーに移動してもかまいません。
3. コマンド行プロンプトで、コマンド `SMAsetup.EXE /s /v"/qn"` を入力します。Enter を押します。

注: コマンド・プロンプトから SMA をインストールする前に、必ず前のバージョンの SMA をアンインストールしてください。

SMA のアンインストール

SMA をアンインストールするには、次のようにします。

1. 「**スタート**」→「**コントロール・パネル**」をクリックします。「コントロール パネル」ウィンドウが開きます。
2. 「**プログラムの追加と削除**」をダブルクリックします。「プログラムの追加と削除」ウィンドウが開きます。
3. 「**System Migration Assistant**」をクリックします。
4. 「**削除**」をクリックします。確認ウィンドウが開きます。
5. 「**はい**」をクリックして、画面の指示に従います。

SMA のアンインストールでは、必ずしもすべての SMA ファイルが削除されない場合があります。手動で以下のファイルを削除する必要があります。

- SMA を実行しているときに生成された SMA ログ・ファイル。SMA をデフォルトの場所にインストールした場合、このファイルは同じディレクトリー内にあります。
- SMA に固有の一時ファイル。デフォルトでは、これらのファイルは *d*:¥_SMA に保存されています。ここで、*d* は、ハード・ディスクのドライブ名です。
- SMA 移行ファイル。これらは拡張子 .sma が付いたファイルです。

第 3 章 GUI を使用した移行の実行

SMA 5.1 では、「ターゲット主導による移行シナリオ」と「標準移行シナリオ」の 2 つのタイプの移行シナリオを行うことができます。

ターゲット主導による移行シナリオ
: ターゲット・コンピューターにすでに SMA をインストールしている場合は、ターゲット・コンピューターから移行を開始できます。 SMA は、ソース・コンピューターをセットアップし移行を開始するためのウィザードを提供します。

標準移行シナリオ
: 最初に両方のコンピューターに SMA をインストールします。次に、ソース・コンピューターで移行プロセスを開始することができます。

上記それぞれの移行シナリオの中で、さらに「簡易移行」か「カスタム移行」のどちらの移行タイプにするかを選択できます。

簡易移行タイプ
: 移行するファイルを選択する必要があります。選択済みファイルと共に、一部のアプリケーション・データおよび設定が自動的に移行されます。このタイプは、簡単で迅速な移行方法です。

カスタム移行タイプ
: ファイルだけでなく、アプリケーション・データと設定も選択する必要があります。選択プロセスの実行中、いくつかのウィンドウが表示されます。

PC から PC へのターゲット主導による移行を始めるには、 16 ページの『PC から PC への移行』を参照してください。

PC から PC への標準移行を開始するには、 42 ページの『PC から PC への移行』を参照してください。

取り外し可能メディアを使用して標準移行を開始するには、 54 ページの『ファイル転送による移行』を参照してください。

ターゲット主導による移行シナリオの実行

重要

移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。詳しくは、 85 ページの『付録 B. トラブルシューティング』 を参照してください。

PC から PC への移行

PC から PC へのターゲット主導による移行を行う場合、SMA GUI を使用してデータと設定の取り込みと適用を行います。

PC から PC へのターゲット主導による移行は、自動とマニュアルのどちらも可能です。

自動
SMA は、イーサネット・クロスオーバー・ケーブル経由、またはネットワーク経由でソース・コンピューターにインストールされます。自動インストールを開始する前に、ターゲットとソース・コンピューター間の接続をセットアップするようにプロンプトが出されます。

注: ソースおよびターゲットの両コンピューターの管理特権を持つアカウントでログオンします。

マニュアル
SMA は、取り外し可能メディアを使用してソース・コンピューターにインストールされます。取り外し可能メディアを挿入して、「**次へ**」をクリックします。SMA はインストール・パッケージをそこにコピーします。Windows 98 または Windows NT 4.0 が稼働するコンピューター間で移行する場合は、この方法を使用します。

PC から PC へのターゲット主導による移行シナリオを行うには、次のようにします。

1. 移行したいオペレーティング・システムの管理特権のあるアカウントを使用して、ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターにログオンします。マニュアル移行のためには、ターゲット・コンピューターに、USB メモリー・キーなどの取り外し可能ストレージ・デバイスを接続します。

2. ターゲット・コンピューターで、「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。ThinkVantage の「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
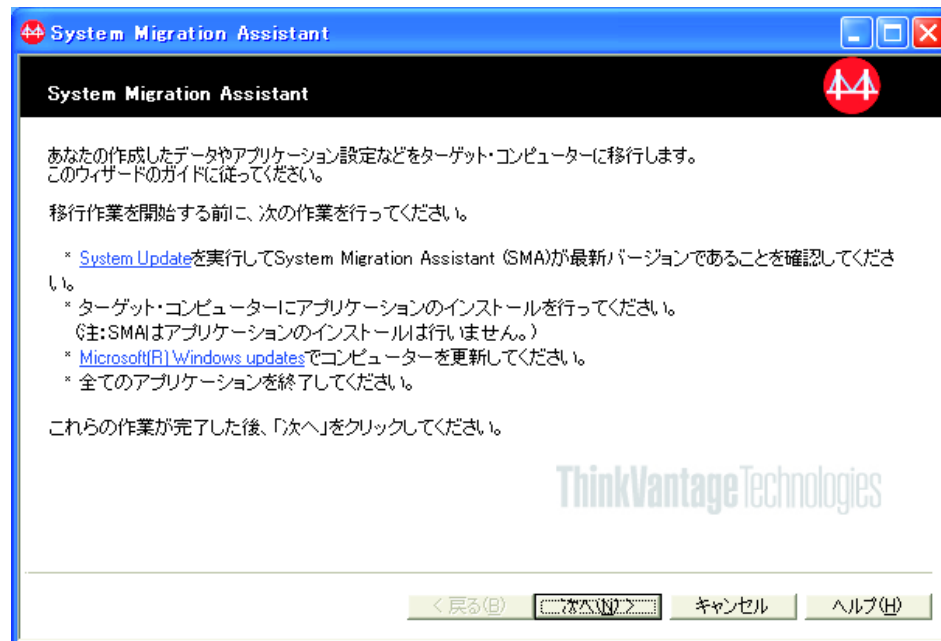
図 7. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが開きます。
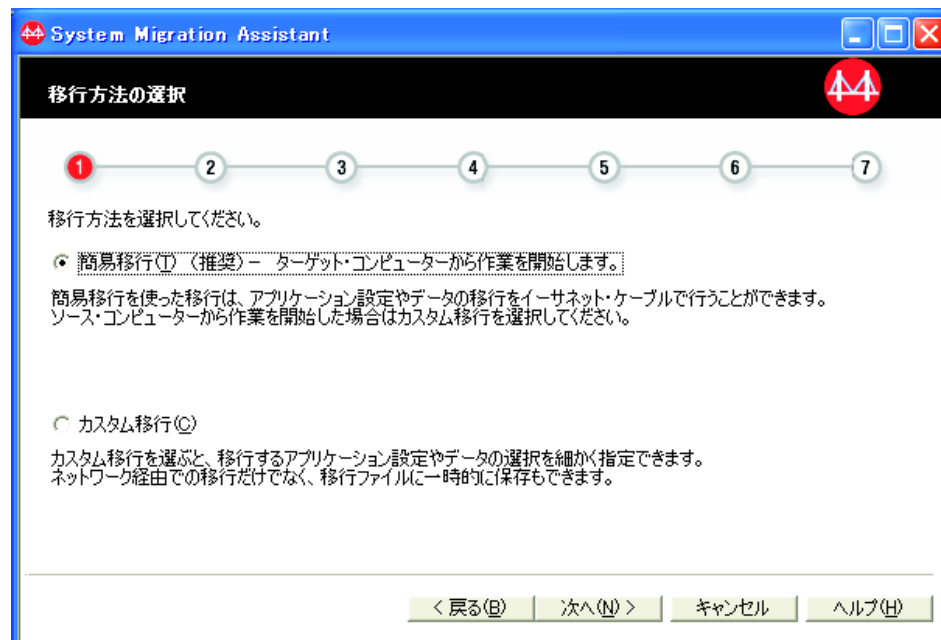
図 8. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「移行方法の選択」ウィンドウ

4. 移行方法を選択し、「**次へ**」をクリックします。

   「**簡易移行**」を選択した場合は、ステップ 6 へ進みます。 「**カスタム移行**」を選択した場合は、「コンピューターの選択」ウィンドウが開きます。
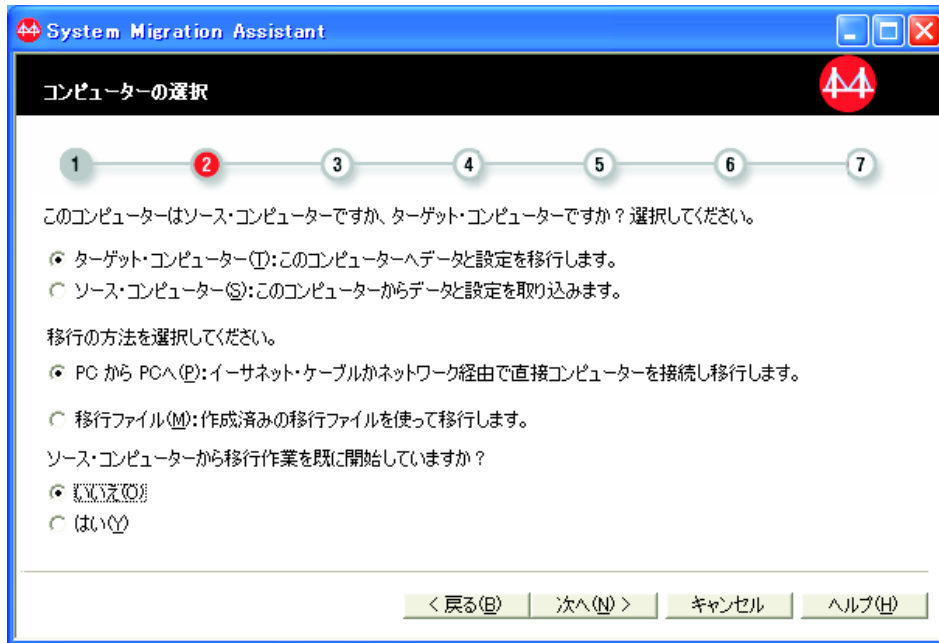
図 9. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「コンピューターの選択」ウィンドウ

5. 「**ターゲット・コンピューター**」、「**PC から PC へ**」と「**いいえ**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。
6. 「イーサネット・ケーブルで双方のコンピューターを接続し、「OK」をクリックしてください。」ダイアログが開きます。
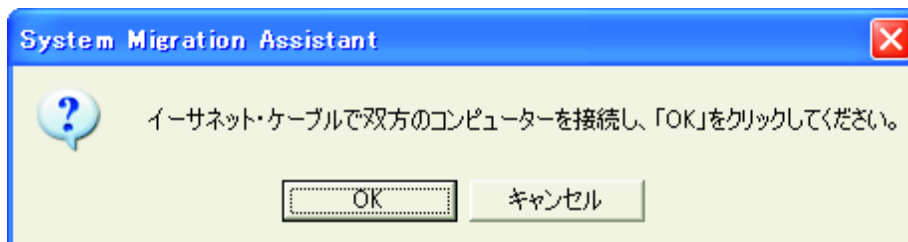
図 10. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「イーサネット・ケーブルで双方のコンピューターを接続し、「OK」をクリックしてください。」ウィンドウ

   コンピューター間をイーサネット・ケーブルで接続してから、「OK」をクリックします。「**キャンセル**」を選択した場合は、ステップ 5 に戻ります。

7. 「インストール方法の選択」ウィンドウが開きます。
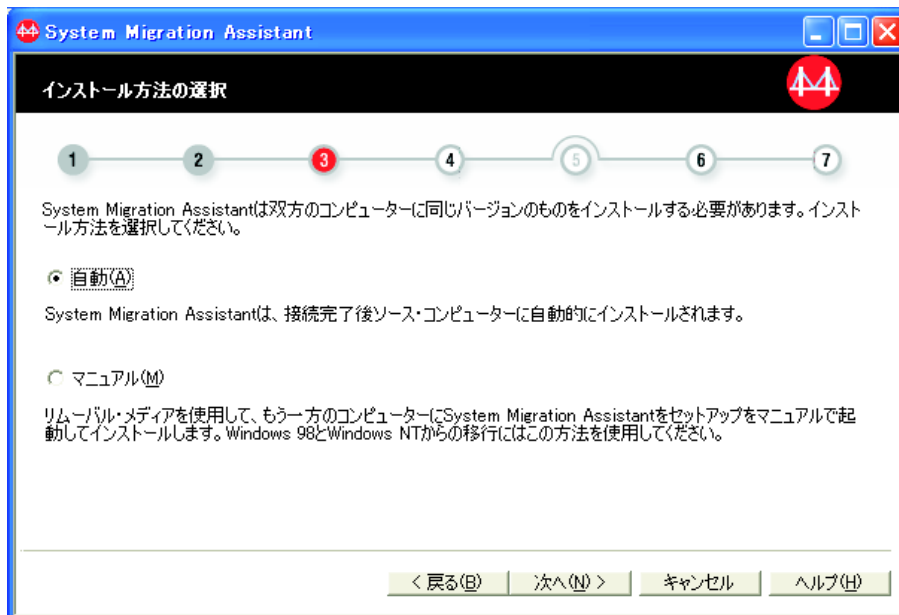
図 11. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「インストール方法の選択」ウィンドウ

インストール方法を選択し、「**次へ**」をクリックします。「**マニュアル**」を選択した場合は、ターゲット・コンピューターに取り外し可能ストレージ・デバイスを接続してから、ステップ 14 (22 ページ) に進みます。「**自動**」を選択した場合は、「ファイヤーウォールを停止してください。」ダイアログが開きます。
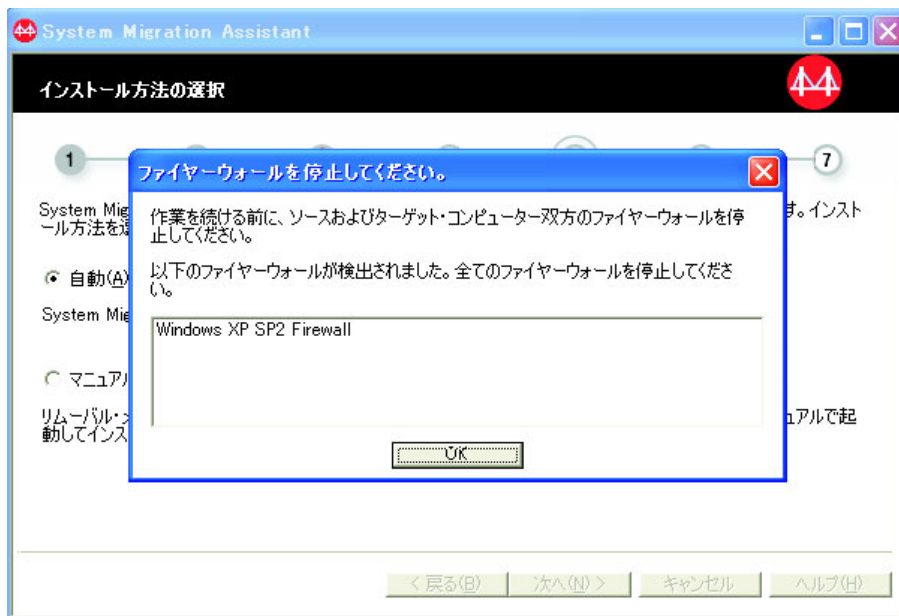
図 12. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「ファイヤーウォールを停止してください。」ダイアログ

8. 両方のコンピューターのファイヤーウォールを使用不可に設定してから、「**OK**」をクリックします。「接続の開始」ウィンドウが開きます。
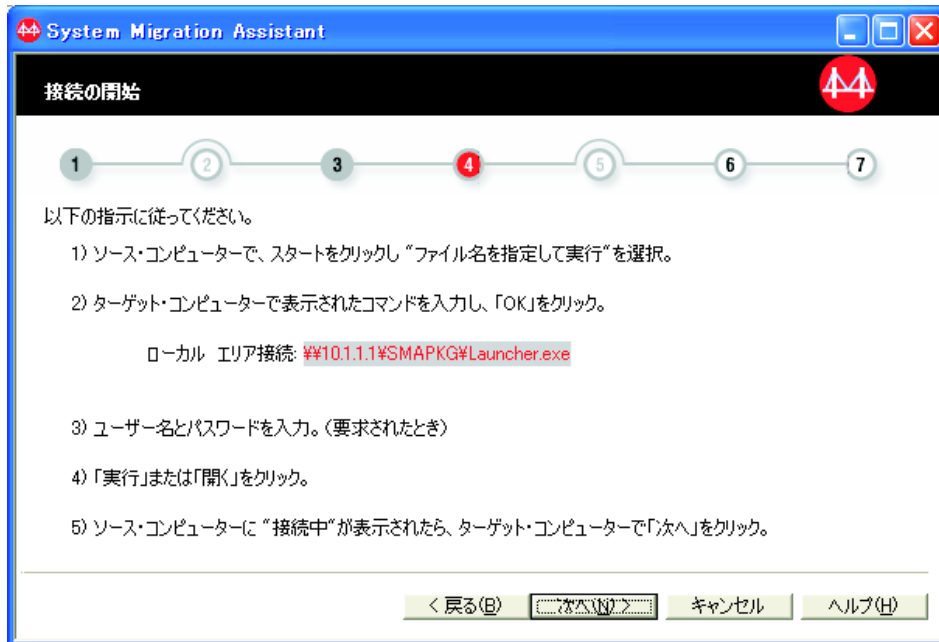
図 13. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「接続の開始」ウィンドウ

9. ソース・コンピューターに向かいます。「**スタート**」をクリックしてから、「**ファイル名を指定して実行...**」をクリックします。「ファイル名を指定して実行」ダイアログが開きます。
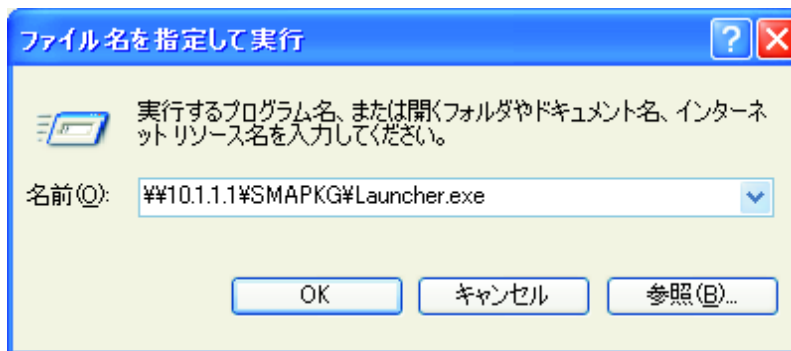
図 14. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「ファイル名を指定して実行」ダイアログ

インストール・パッケージのパスを入力します。パスはターゲット・コンピューターで指定され、たとえば次のようになります。

```
¥¥10.1.1.1¥SMAPKG¥Launcher.exe
```

「**OK**」をクリックします。

10. プロンプトが出されたら、ターゲット・コンピューター用のユーザー名とパスワードを入力します。

11. 「開いているファイル - セキュリティの警告」プロンプトが出た場合は、「**実行**」をクリックします。
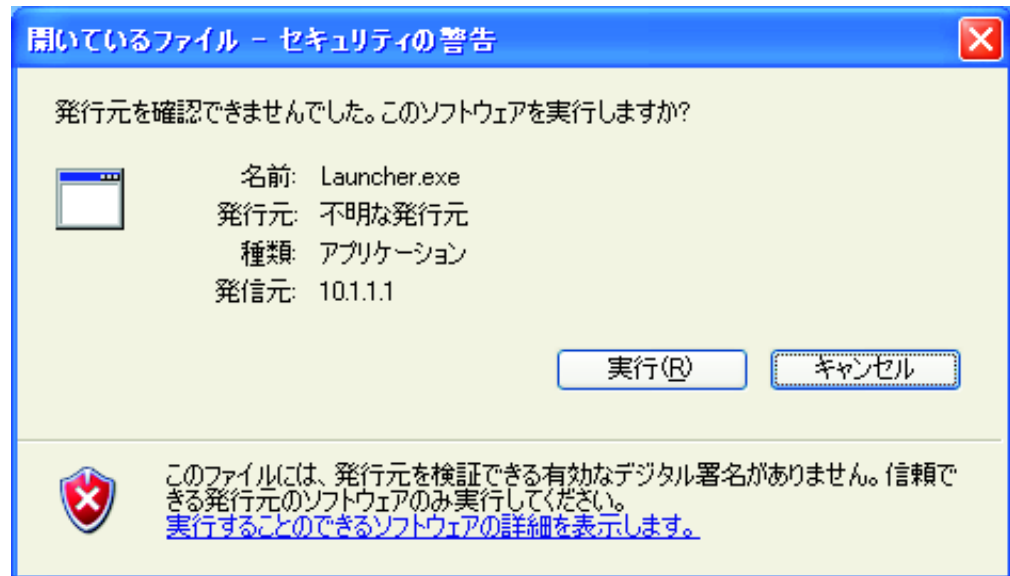
図 15. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「開いているファイル - セキュリティの警告」ダイアログ

12. ソース・コンピューターで「インストール中」ダイアログが開きます。
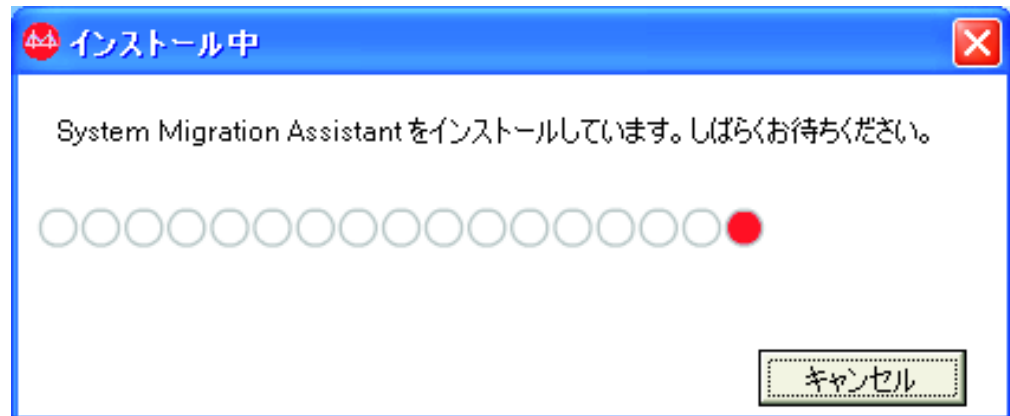
図 16. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「インストール中」ダイアログ

13. ターゲット・コンピューターで「**次へ**」をクリックします。「接続中」ダイアログが開きます。ステップ 38 (32 ページ) へ進みます。

14. ステップ 7 (19 ページ) で「**マニュアル**」を選択した場合は、「コピー」ダイアログが開きます。
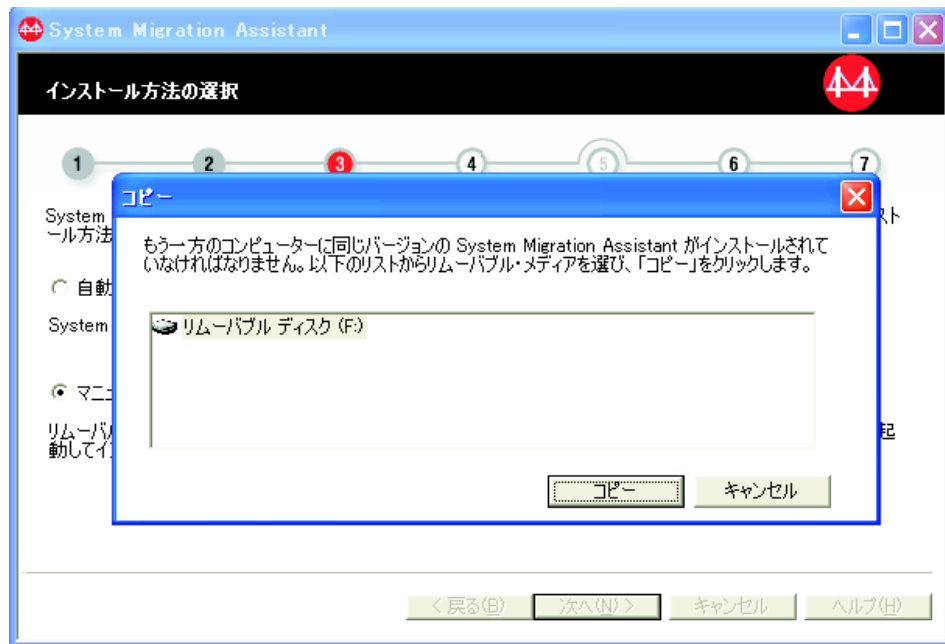
図 17. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「コピー」ダイアログ

15. リストからリムーバブル・ディスクを選択し、「**コピー**」をクリックします。コピー・プロセスが開始します。「コピー」ウィンドウが進行状況をトラッキングします。
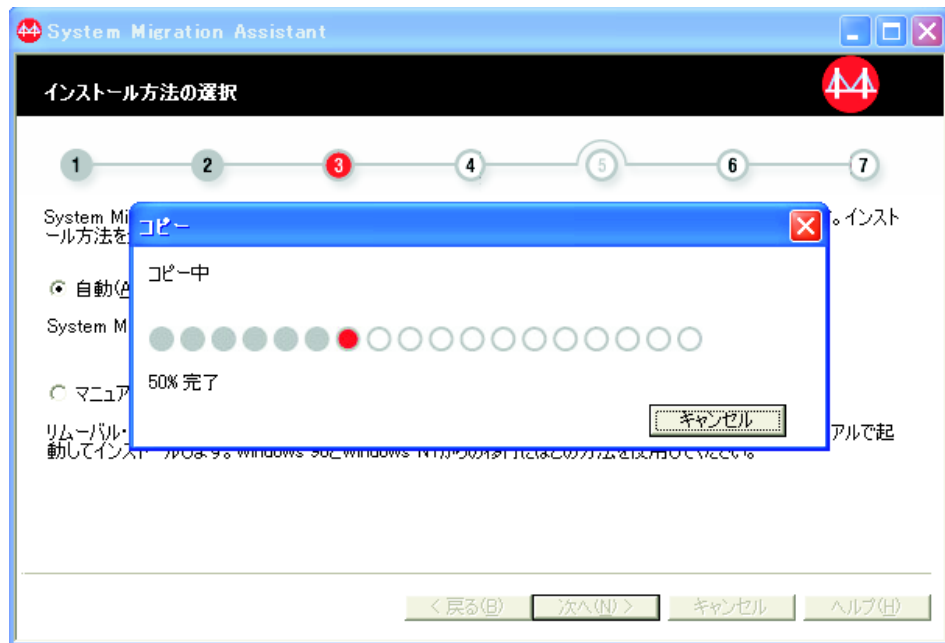
図 18. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「コピー」ダイアログ

16. パッケージのコピーが完了すると、「接続の開始」ウィンドウが開き、パッケージが正常にコピーされたことを通知します。
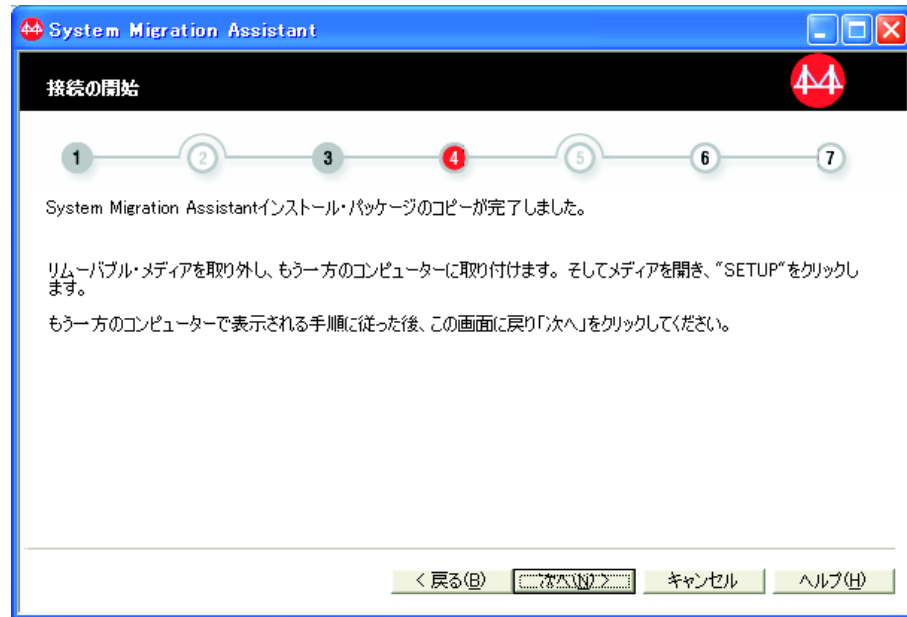
図 19. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「接続の開始」ウィンドウ

17. リムーバブル・ディスクをターゲット・コンピューターから取り外し、ソース・コンピューターに取り付けます。デバイスを開き、**SETUP** プログラムをクリックします。
18. ソース・コンピューターでのインストールが完了すると、「接続の開始」ウィンドウが開きます。
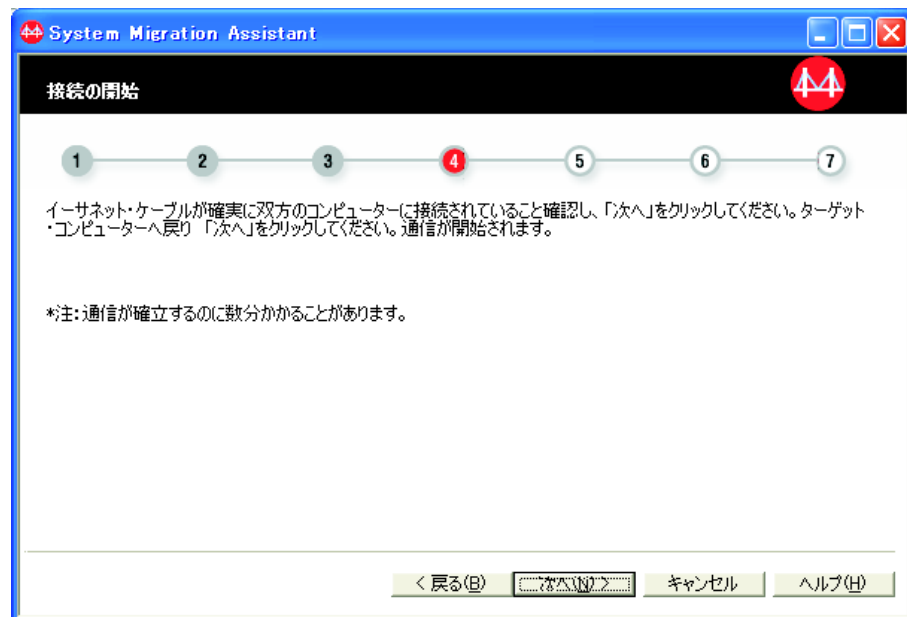
図 20. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「接続の開始」ウィンドウ

19. 「**次へ**」をクリックします。ターゲット・コンピューターに戻り、「**次へ**」をクリックします。PC から PC への接続が開始します。

20. 接続の確立が開始します。進行中は「接続」ダイアログが開いたままになり状況を知らせます。
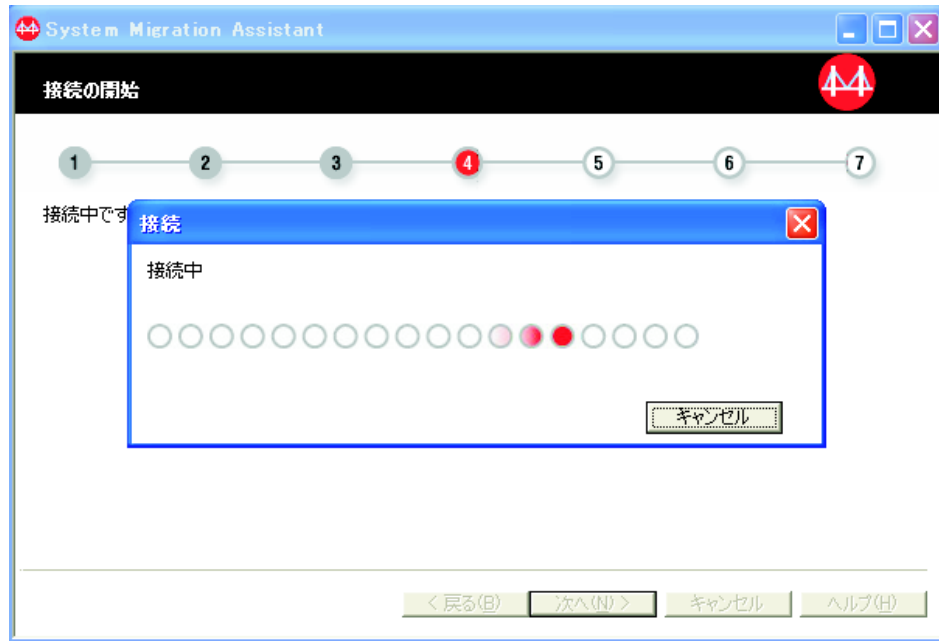
図 21. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「接続」ダイアログ

21. 接続が確立されると、ターゲット・コンピューターに「待機中」ダイアログが開きます。
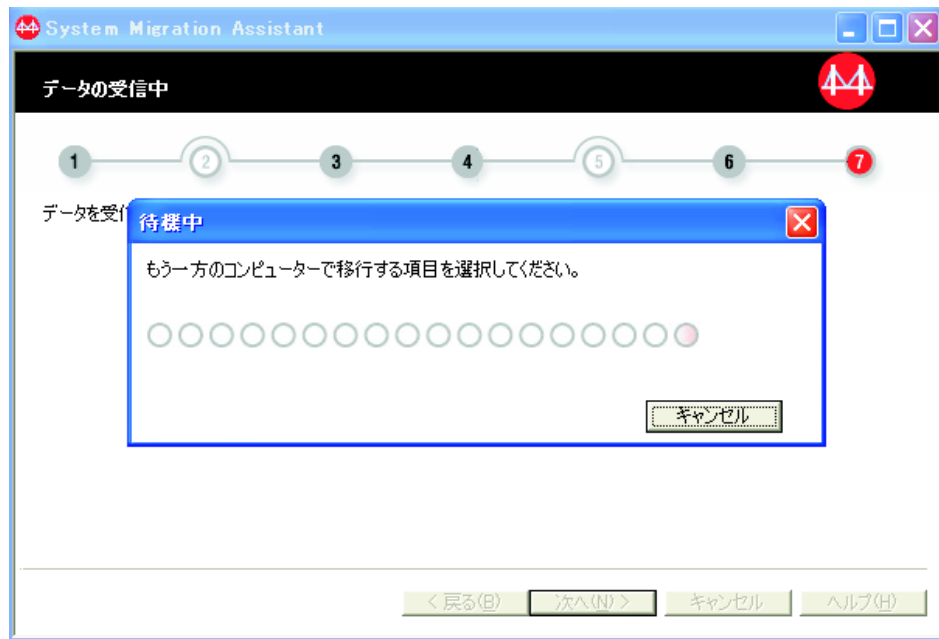
図 22. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「待機中」ダイアログ

22. ソース・コンピューターで、ステップ 4 (18 ページ) で「**カスタム移行**」を選択した場合は、「移行項目の選択」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 38 (32 ページ) へ進みます。

図 23. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「移行項目の選択」ウィンドウ

23. 取り込みたいファイルのカテゴリーを選択します。
24. 「**次へ**」をクリックします。ステップ 23 で「**ユーザー・プロファイル**」チェック・ボックスを選択した場合、次の「移行項目の選択」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 27 (26 ページ) へ進みます。
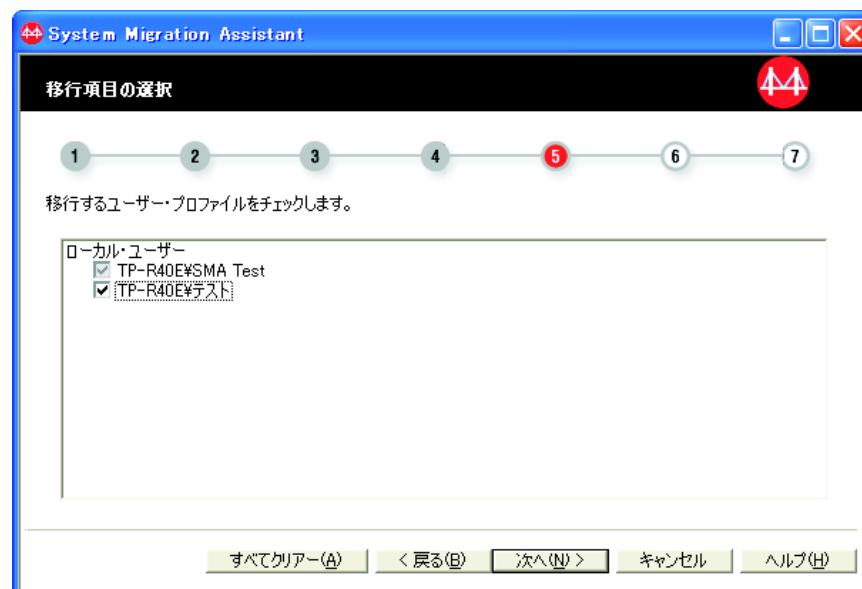
図 24. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「移行項目の選択」ウィンドウ

25. 移行したいユーザー・プロファイルを選択します。ユーザー・プロファイルについて詳しくは、 5 ページの『マルチユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。バックグラウンド・ローカル・プロファイルの場合は、ユーザー・パスワードは移行されずに、ユーザー名にリセットされます。

    ユーザー・プロファイルの移行には以下の制約事項が適用されます。

    - ユーザー・プロファイルを Windows 2000 または Windows XP に移行するには、管理者権限を持つアカウントを使用する必要があります。
    - Windows 98 を実行しているソース・コンピューターから Windows 2000 Professional または Windows XP を実行しているターゲット・コンピューターにユーザー・プロファイルを移行することはできません。
26. 「**次へ**」をクリックします。
27. ステップ 23 (25 ページ) で「**デスクトップ**」チェック・ボックスを選択した場合、次の「移行項目の選択」ウィンドウが開き、移行したいデスクトップの設定を選択するように求められます。それ以外の場合は、ステップ 30 (29 ページ) へ進みます。
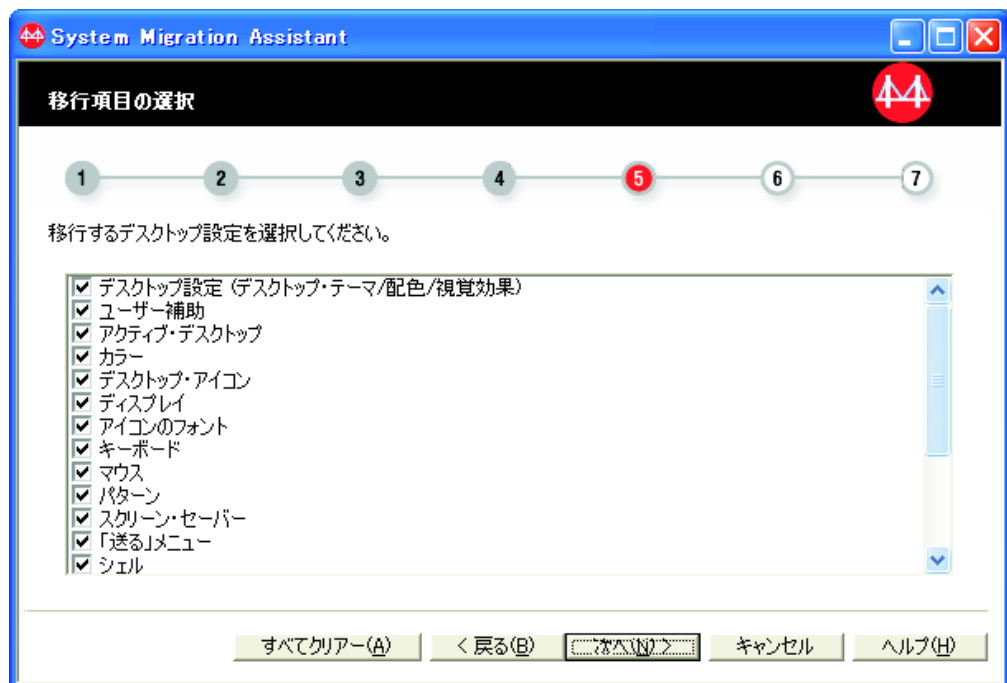
図 25. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「移行項目の選択」ウィンドウ

28. 移行したいデスクトップ設定を選択します。

ユーザー補助
キーボード、サウンド、マウス、およびその他の設定に対するユーザー補助設定

アクティブ・デスクトップ
アクティブ状態 (Windows XP Professional ではサポートされません)

カラー デスクトップおよびウィンドウのカラー

デスクトップ設定 (デスクトップ・テーマ/カラー・スキーム/視覚効果)
デスクトップ・テーマ、カラー・スキーム、視覚効果

デスクトップ・アイコン
すべてのデスクトップ・コンテンツ (フォルダー、ファイル、ショートカット、およびアイコンを含む)

注:

a. アイコンの場所は移行されません。

b. デスクトップ・アイコンは Windows XP と Windows 2000 のみに移行できます。 Windows NT 4.0 はサポートされていません。

ディスプレイ
デスクトップの幅、高さ、およびカラー深度

アイコンのフォント
デスクトップのアイコンに使用されるフォント

キーボード
キーボードの反復速度、カーソルの明滅間隔、および遅延

マウス マウスの右利きと左利きの設定、速度、およびダブルクリック間隔

パターン
デスクトップで使用するパターン (Windows XP Professional ではサポートされません)

スクリーン・セーバー
現在のスクリーン・セーバー設定

「送る」メニュー
「送る」メニューの設定

シェル 表示のソート順、表示のタイプ (大きいアイコンまたは小さいアイコン)、ステータス・バー、およびツールバーの状況 (表示/非表示)

サウンド
サウンドの設定

「スタート」メニュー
「スタート」メニュー・コマンド

注: 「スタート」メニューはフォアグラウンド・ログオン・ユーザーの場合にのみ移行されます。バックグラウンド・ユーザーの設定は移行されません。

タスクバー
: ドッキング・エッジ、サイズ、常に手前に表示、自動非表示、時計表示、「スタート」メニューでの小さいアイコンの表示

  注: タスクバー位置の移行は Windows XP ではサポートされていません。

タイム・ゾーン
: タイム・ゾーンの設定

壁紙
: デスクトップの壁紙

ウィンドウ・サイズ
: 最小化ウィンドウのスペーシングと配置、ダイアログ・メッセージのフォント、メニュー・サイズ、スクロール・バーのサイズ

デスクトップ設定には以下の制約事項が適用されます。

- **ユーザー補助:**
  - Windows 98 から Windows 2000 Professional に移行する場合、ShowSounds、SoundSentry、および Stickykeys 設定の移行はできません。
  - 「カーソル」オプション、ポインター速度、および「通知」オプションの移行はできません。
- **アクティブ・デスクトップ:** 壁紙を含むアクティブ・デスクトップを移行するには、壁紙の設定も選択しなければなりません。
  - デスクトップ・アイコン間の垂直および水平スペーシングは、正確には移行されません。
  - 現行ユーザーのデスクトップ・ディレクトリーに入っているアイコンだけが移行されます。
- **マウス:** Windows XP Professional を実行しているターゲット・コンピューターにマウス速度を移行することはできません。
- **スクリーン・セーバー:** Windows 98 から Windows 2000 Professional または Windows XP に移行している場合は、スクリーン・セーバーの移行はできません。
- **シェル:** Windows Explorer シェルを移行するには、シェルのデスクトップ設定と Microsoft Internet Explorer アプリケーションの設定を両方とも移行しなければなりません。ターゲット・コンピューターが Windows 2000 Professional または Windows XP を使用している場合は、フォルダー表示の設定 (たとえば、大きいアイコン、タイル、詳細など) は移行されません。
- **サウンド:** SMA は、アクティブ・サウンド・スキームをソース・コンピューターからターゲット・コンピューターに移行します。サウンド・スキームは、Windows コントロール パネルの「サウンドとマルチメディア・プロパティー」ウィンドウで設定されます。ソース・コンピューターのサウンド・スキームが「**サウンドなし**」に設定されていれば、サウンドはターゲット・コンピューターに移行されません。ソース・コンピューターでカスタム・サウンドが使用されている場合は、サウンド・ファイルをサウンド・スキームと一緒に移行する必要があります。
- **タスクバー:** Windows XP が稼働するターゲット・コンピューターに移行する場合は、タスクバーの位置は移行されません。

29. 「**次へ**」をクリックします。

30. ステップ 23 (25 ページ) で「**アプリケーション設定**」チェック・ボックスを選択した場合、次の「移行項目の選択」ウィンドウが開き、移行したいアプリケーションの設定を選択するように要求されます。それ以外の場合は、ステップ 33 (30 ページ) へ進みます。
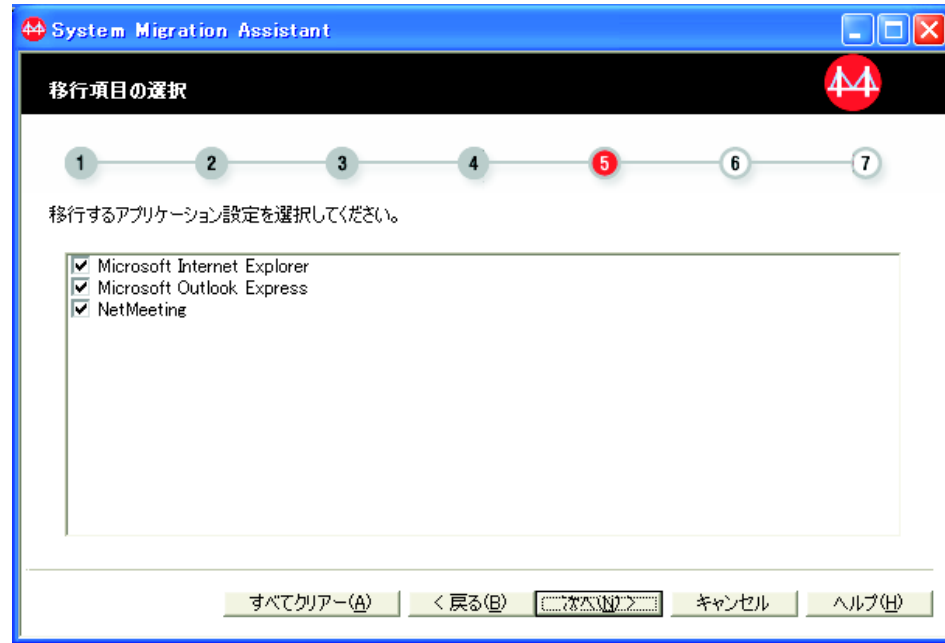
図 26. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「移行項目の選択」ウィンドウ

31. 設定を移行するアプリケーションを選択します。

    SMA は、ユーザー設定とカスタマイズ情報を取り込むことができます。Internet Explorer および Netscape Navigator のカスタマイズ情報には、そのアプリケーションのバージョンにより、ブックマーク、 cookies、および設定が含まれることがあります。 Lotus® Notes® および Microsoft Outlook の場合は、これらの設定には、アドレス帳とローカルに保存された E メールが含まれることがあります。

    ターゲット・マシンにインストールされたアプリケーションのバージョンが、ソース・マシンにインストールされたバージョンより前の場合、アプリケーションの設定は移行されません。

    アプリケーション設定の移行に適用される制約事項の詳細については、 75 ページの『付録 A. 移行可能なアプリケーション設定』を参照してください。

32. 「**次へ**」をクリックします。

33. ステップ 23 (25 ページ) で「**ネットワーク**」チェック・ボックスを選択した場合、次の「移行項目の選択」ウィンドウが開き、移行したいネットワークの設定を選択するように求められます。それ以外の場合は、ステップ 35 (31 ページ) へ進みます。
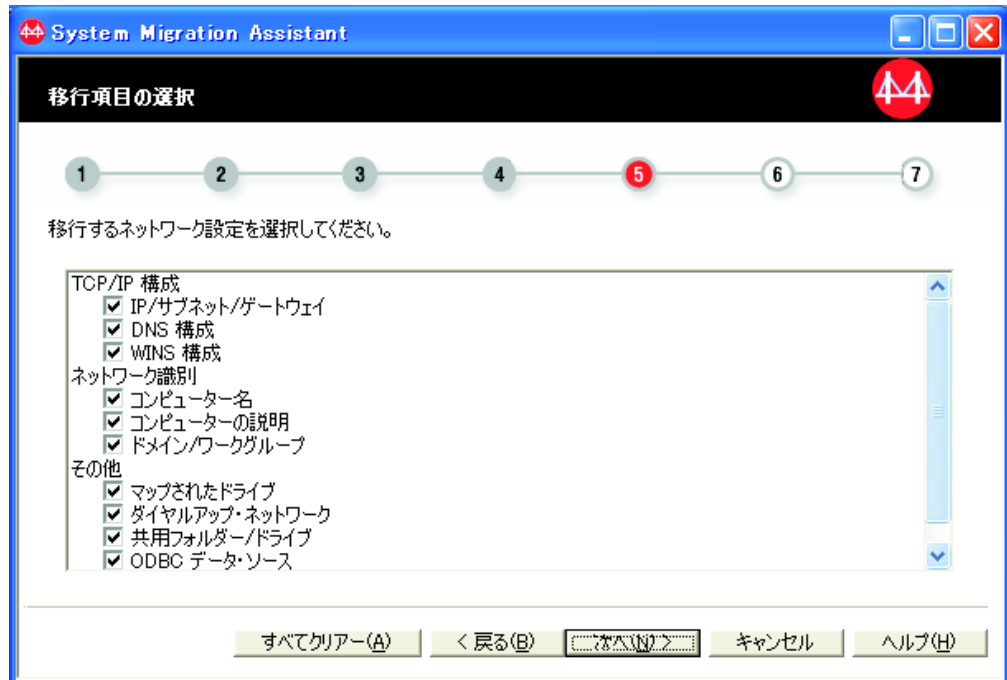
図 27. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「移行項目の選択」ウィンドウ

34. 移行したいネットワーク設定を選択します。

TCP/IP 構成

- IP/サブネット/ゲートウェイ
- DNS 構成
- WINS 構成

ネットワーク識別

- コンピューター名
- コンピューターの説明
- ドメイン/ワークグループ

その他

- マップされたドライブ
- ダイヤルアップ・ネットワーク
- 共用フォルダー/ドライブ
- ODBC データ・ソース

ネットワーク設定には以下の制約事項が適用されます。

- **ドメイン/ワークグループ:** ソース・コンピューターがドメインのメンバーであり、ターゲット・コンピューターをこの同じドメインのメンバーにしたい場合は、ドメイン・コントローラーにターゲット・コンピューター用のアカウントを作成します。ドメイン・コントローラーが Windows 2000 Server を実行している場合は、「**Windows 2000 以前のコンピューターにこのアカウントの使用を許可する**」チェック・ボックスを選択してください。ドメイン・ネームを移行する前に、コンピューター名を移行する必要があります。
- **DNS 構成:** PC から PC への移行を実行する場合、DNS 設定は移行されません。

35. ステップ 23 (25 ページ) で「**プリンター**」チェック・ボックスを選択した場合、次の「移行項目の選択」ウィンドウが開き、移行したいプリンターを選択するように求められます。それ以外の場合は、ステップ 38 (32 ページ) へ進みます。
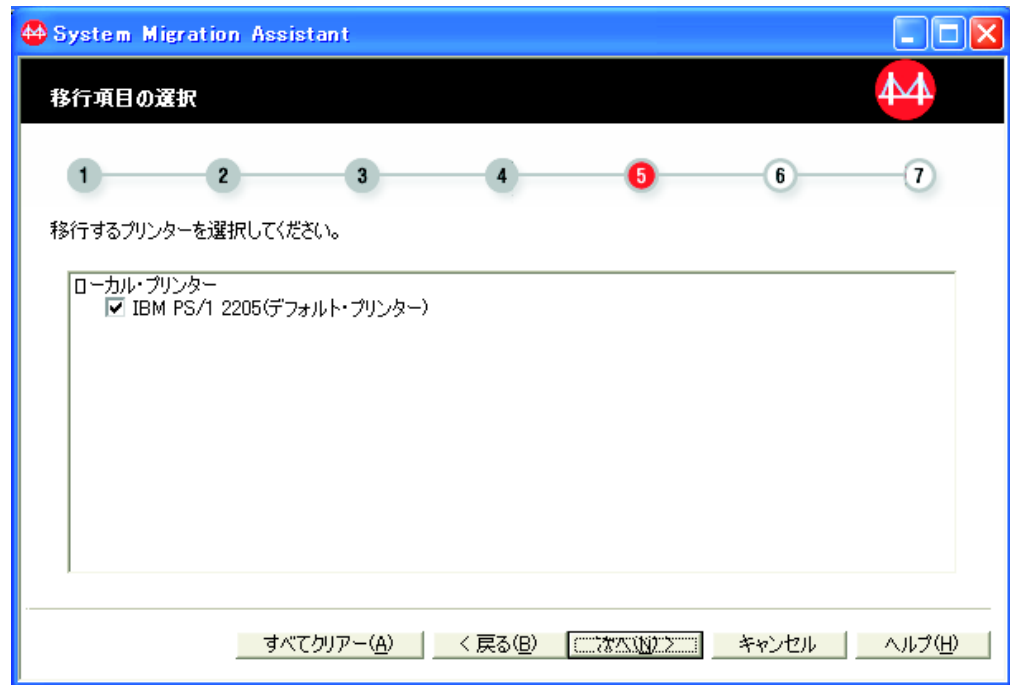
図 28. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行: 「移行項目の選択」ウィンドウ

36. プリンター・リンクとデバイス・ドライバーを移行したいプリンターを選択します。デフォルト・プリンターは自動的に選択されます。

注:

a. デバイス・ドライバーがソース・コンピューターにマニュアルでインストールされたプリンターを選択する場合は、移行前にターゲット・コンピューターに同じデバイス・ドライバーをインストールしてください。

b. デフォルトでは、標準 TCP/IP ポート・プリンターも LPR ポート・プリンターも移行できません。プリンター設定の移行についての詳細は、「*ThinkVantage System Migration Assistant v.5.1 Deployment Guide*」を参照してください。

37. 「**次へ**」をクリックします。

38. ステップ 23 (25 ページ) で「**ファイルとフォルダー**」チェック・ボックスを選択した場合、またはステップ 4 (18 ページ) で「**簡易移行**」ラジオ・ボタンを選択した場合、スキャン中であることを示すダイアログ・ボックスが開き、SMA によりハード・ディスクがスキャンされます。それ以外の場合は、ステップ 44 (37 ページ) へ進みます。

図 29. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「スキャン中」ダイアログ

スキャンが完了すると、「リストの作成」ダイアログが開き、インディケーターが進行度を表示します。
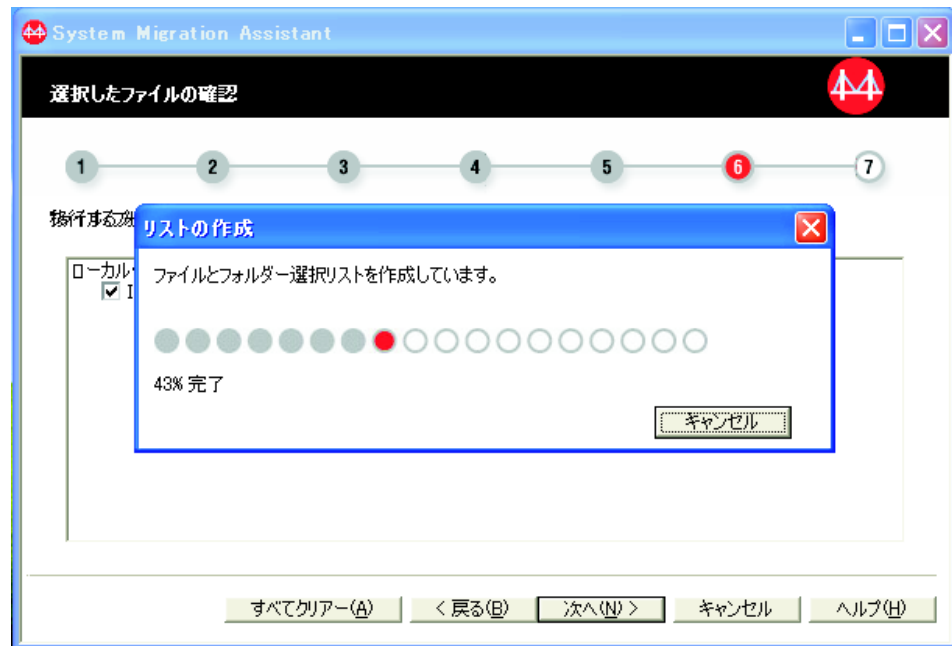
図 30. GUI モードでの移行の実行: 「リストの作成」ダイアログ

作成プロセスが完了すると、「選択したファイルの確認」ウィンドウが開き、デフォルトで「ファイル/フォルダー」タブが表示されます。

図 31. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「選択したファイルの確認」ウィンドウ上の「ファイル/フォルダー」タブ

39. 移行したいファイルを選択します。ファイルを個々に選択することもできますが、特定のタイプのすべてのファイル、または選択したディレクトリー内のすべてのファイルを一括して選択することもできます。 ディレクトリーを選択すると、そのディレクトリーに入っているすべてのファイルが自動的に選択されます。

   「ファイル/フォルダー」タブには、ソース・コンピューター上のファイルが、場所順にソートされてリストされます。

   タイプ別にソートされたファイルを表示するには、「**ファイル・タイプ**」をクリックします。「ファイル・タイプ」タブが表示されます。特定のタイプのファイルをすべて選択することもできますが、ファイル・タイプを展開して個々のファイルを選択することもできます。

図 32. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「選択したファイルの確認」ウィンドウ上の「ファイル・タイプ」タブ

40. 特定のファイルまたはファイル拡張子を検索するには、「**検索**」をクリックします。検索用のウィンドウが開きます。
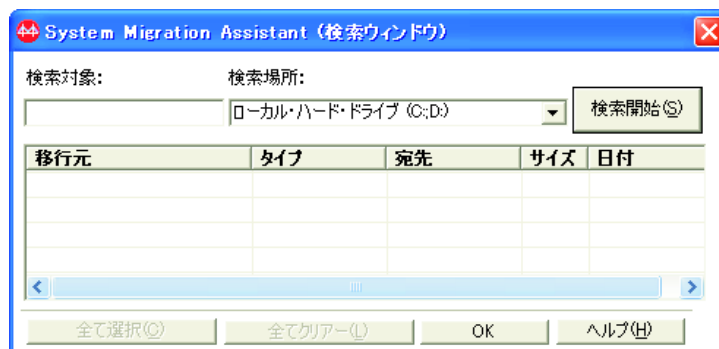
図 33. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「検索」ウィンドウ

41. 「**検索対象**」フィールドにファイル名を入力します。ゼロ以上の文字を表すアスタリスク (*) と、正確に 1 文字を表す疑問符 (?) などのワイルドカード文字を使用することができます。「**検索場所**」フィールドで、検索したいハード・ディスクを選択します。「**検索開始**」をクリックします。

アテンション

a. オペレーティング・システム・ファイルを移行しないでください。移行すると、ターゲット・コンピューターの誤動作を招く原因になることがあります。

b. ハード・ディスクの内容全体を選択しないでください。内容全体を選択すると、オペレーティング・システム・ファイルを含め、すべてのファイルが選択されてしまうためです。

c. 拡張子が DLL、EXE、または COM のファイルを選択するときは注意が必要です。SMA は、Windows レジストリー項目を調整しません。アプリケーション・ファイルを選択すると、アプリケーションがターゲット・コンピューターで正しく稼働しないことがあります。

42. 選択したファイルをターゲット・システムのどこに保存するかを検討してください。ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターのハード・ディスクの構成が違う場合は、ファイルとディレクトリー用に代替宛先を選択する必要があります。
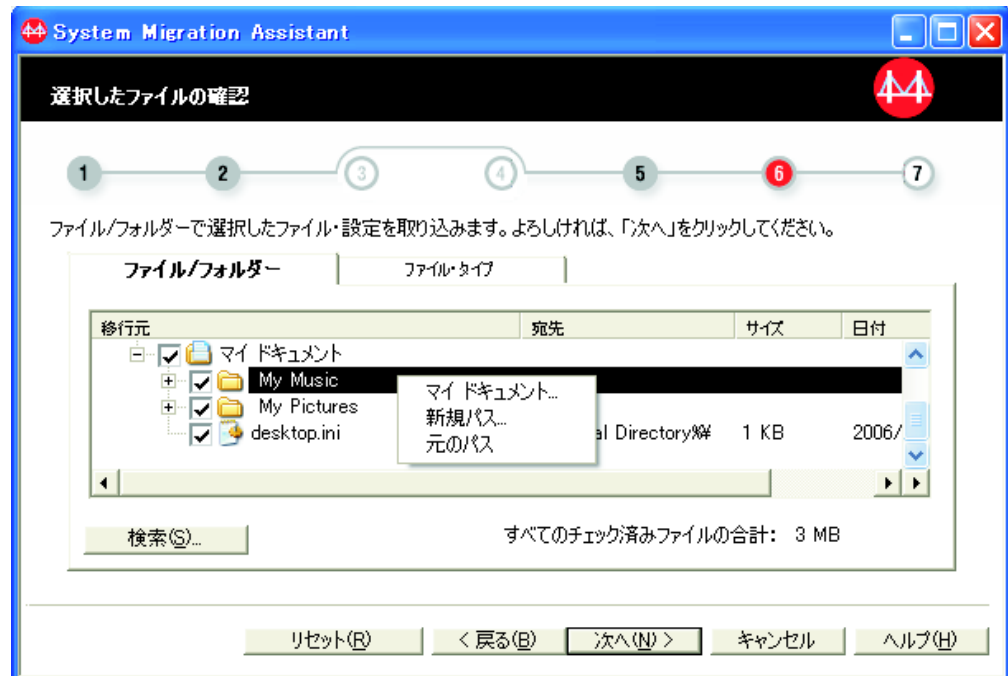
図 34. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「選択したファイルの確認」ウィンドウ

ファイルの宛先ロケーションを変更するには、そのファイル名を右クリックします。メニューが表示されます。選択したファイルは、「マイ ドキュメント」ディレクトリーに保存するか、または新規のパスを指定したり元のパスをそのまま使用することもできます。

- ファイルを「マイ ドキュメント」ディレクトリーに保存するには、「 **マイ ドキュメント**」をクリックします。マイ ドキュメントを宛先として指定するためのウィンドウが開きます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。
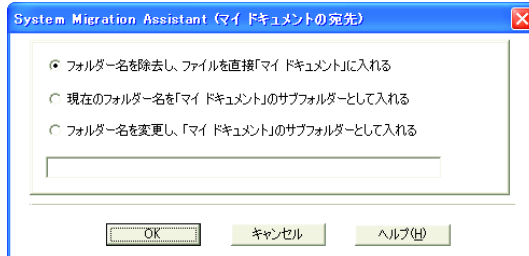
図 35. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「マイ・ドキュメントの宛先」ウィンドウ

- ファイルの代替パスを選択するには、「**新規パス**」をクリックします。新規パスを宛先として指定するウィンドウが開きます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。
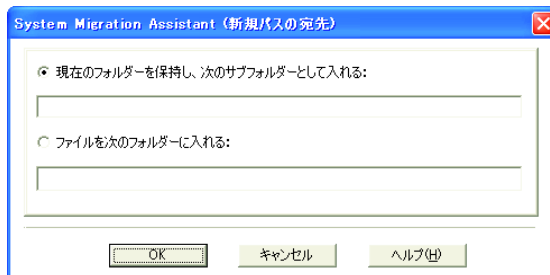
図 36. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「新規パスの宛先」ウィンドウ

- ファイルのオリジナル・パスを保持するには、「**元のパス**」をクリックします。デフォルトでは、SMA で、ファイルがそれと同じ名前のファイルがあるディレクトリーに移行されると、移行される側のファイルによって古いファイルが上書きされます。 (ファイルが上書きされないように Commands.XML ファイルをカスタマイズすることができます。詳しくは、「*ThinkVantage System Migration Assistant 5.1 Deployment Guide*」を参照してください。)

重要: ファイルの位置を変更するときは注意してください。バッチ・ファイルと構成ファイルには、完全修飾パス名が含まれていることがあります。したがって、バッチ・ファイルと構成ファイルが参照するファイルとディレクトリーの位置を変更すると、プログラムまたはタスクは正常に稼働しません。

注: Commands.xml ファイルを使用しても、アプリケーション設定とデスクトップ設定を除外することはできません。

43. 「**次へ**」をクリックします。
44. 「確認」ダイアログが開きます。
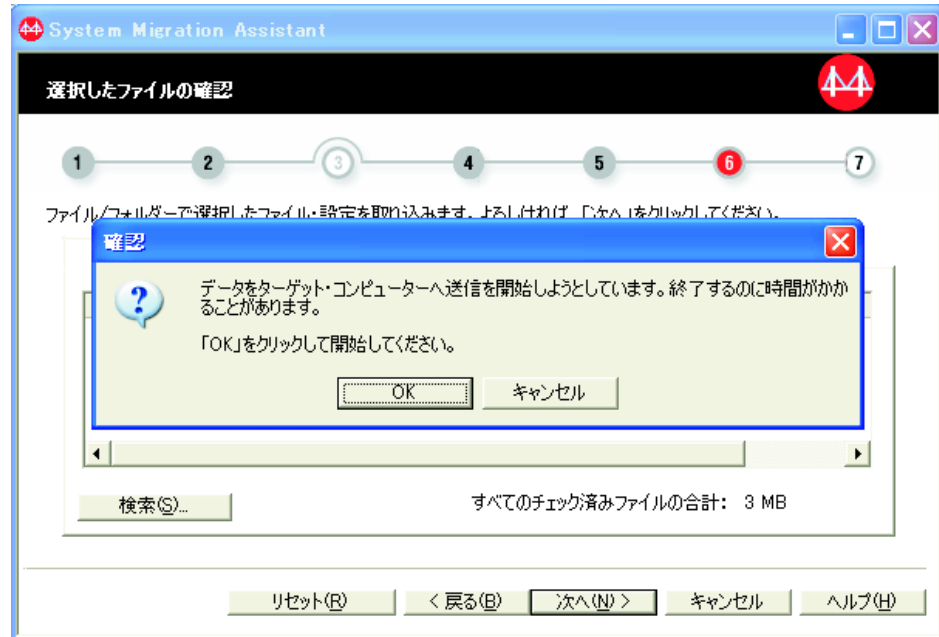
図 37. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「確認」ダイアログ

「**OK**」をクリックします。
45. 「取り込み中」ダイアログが開きます。

図 38. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「取り込み中」ダイアログ

図 39. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「取り込み中」ダイアログ

設定とファイルの取り込みが完了すると、取り込まれたデータはターゲット・コンピューターに送信されます。「送信中」ダイアログが開きます。

図 40. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「送信中」ダイアログ

SMA では、ソース・コンピューターで作成した移行ファイルがターゲット・コンピューターにコピーされた後、保存された移行ファイルが適用されます。 移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

46. ターゲット・コンピューターで「受信中」ダイアログが開き、適用フェーズが開始します。
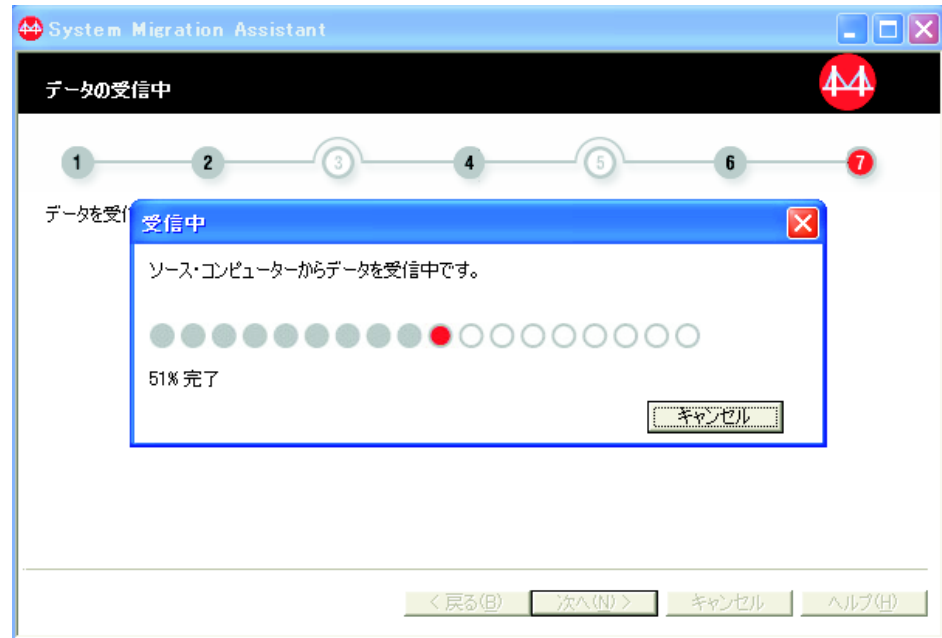
図 41. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「受信中」ダイアログ

移行ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。

47. データがターゲット・コンピューターにより受信された後に、「適用中」ウィンドウが開きます。

図 42. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「適用中」ウィンドウ
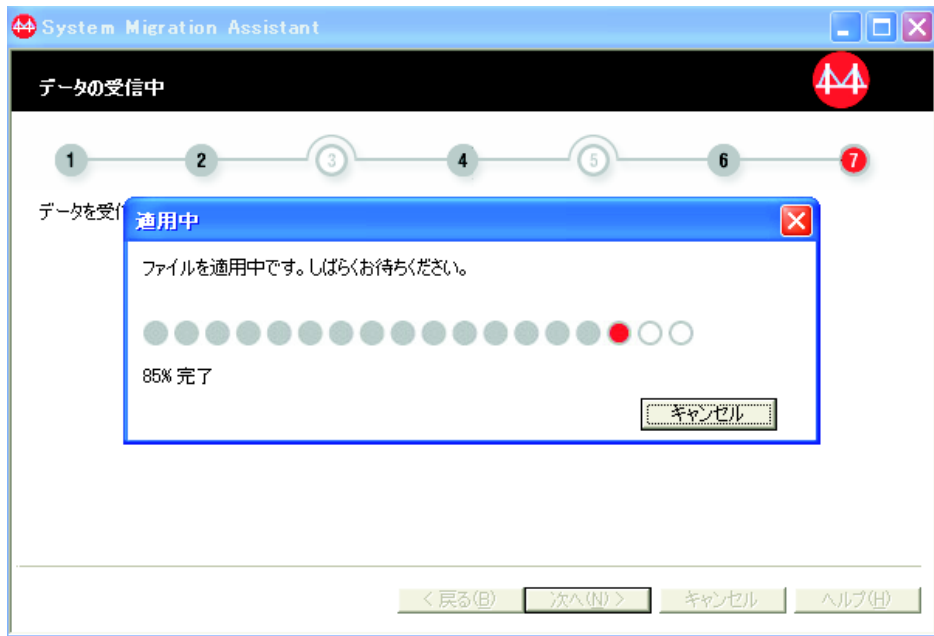
図 43. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「適用中」ウィンドウ

48. 移行ファイルの適用後、両方のコンピューターで「移行サマリー」ウィンドウが開きます。
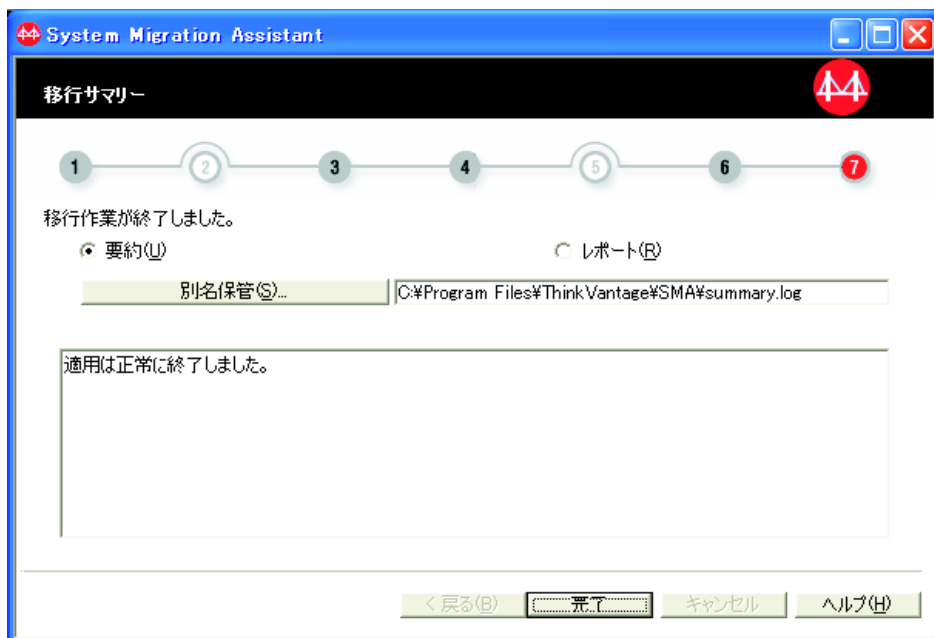
図 44. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「移行サマリー」ウィンドウ

SMA を終了するには、「**完了**」をクリックします。

49. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。
   a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
   b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
   c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。
   d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
   e. 「**保存**」をクリックします。
50. ソース・コンピューターで「**完了**」をクリックします。
51. ターゲット・コンピューターで「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。「**OK**」をクリックすると、コンピューターが即時に再起動されます。
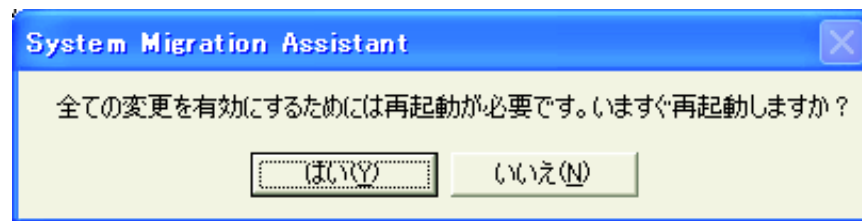
図 45. PC から PC へのターゲット主導による移行の実行:「コンピューターの再起動」ダイアログ

標準移行の実行

> **重要**
> 移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

PC から PC への移行

PC から PC への標準移行では、SMA GUI を使用して SMA 移行ファイルの取り込みと適用を行います。移行したい設定とファイルを選択すると、SMA は、ターゲット・コンピューターに接続し、移行ファイルをターゲット・コンピューターの一時場所に保存した後、移行ファイルをターゲット・コンピューターに適用します。

PC から PC へのカスタム移行を実行するには、次のようにします。

1. 移行したいオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
2. **「スタート」** → **「すべてのプログラム」** → **「ThinkVantage」** → **「System Migration Assistant」**の順にクリックします。ThinkVantage の「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
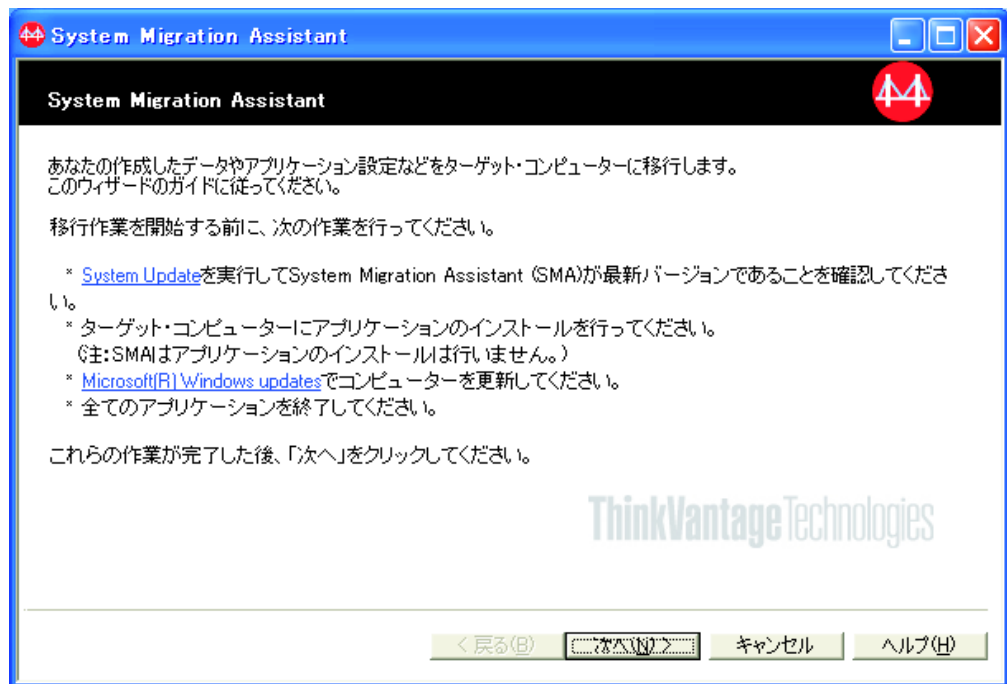
図 46. PC から PC への標準移行の実行: 「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが開き、どのような移行をするのか尋ねられます。
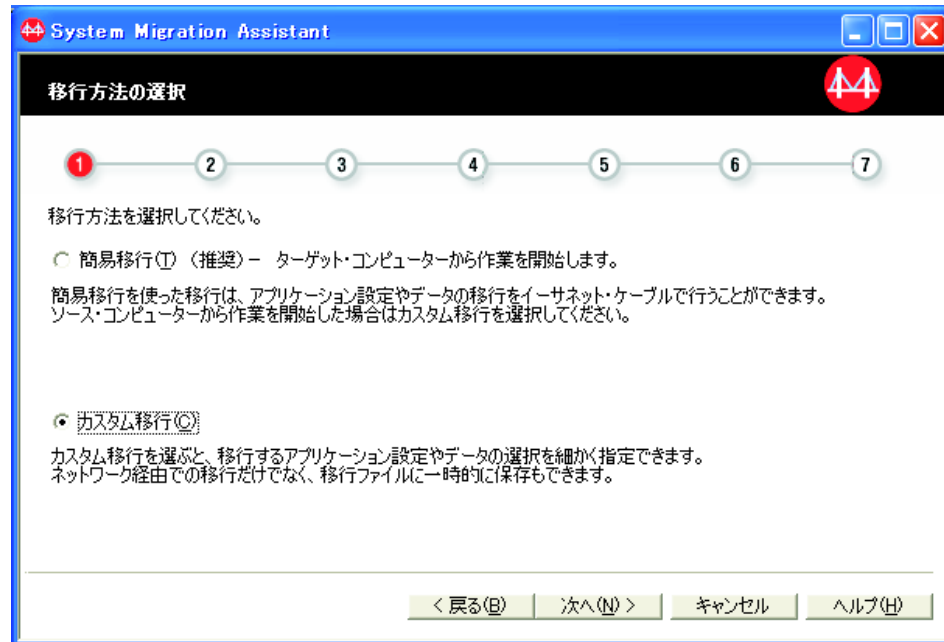
図 47. PC から PC への標準移行の実行:「移行方法の選択」ウィンドウ

4. 「**カスタム移行**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「コンピューターの選択」ウィンドウが開きます。
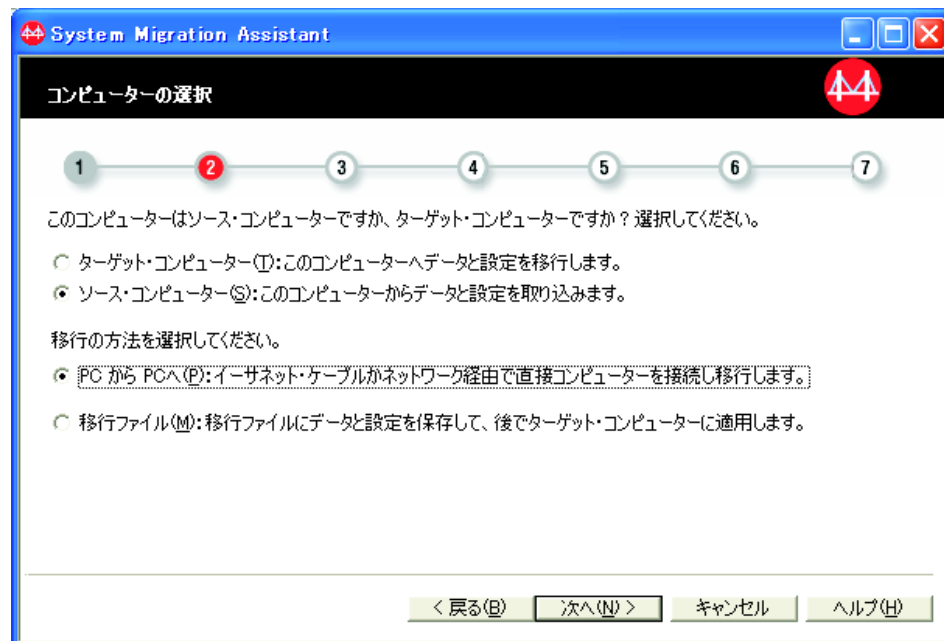
図 48. PC から PC への標準移行の実行:「コンピューターの選択」ウィンドウ

5. 「**ソース・コンピューター**」および「**PC から PC へ**」を選択します。「**次へ**」をクリックします。「ファイヤーウォールを停止してください。」ダイアログが開きます。
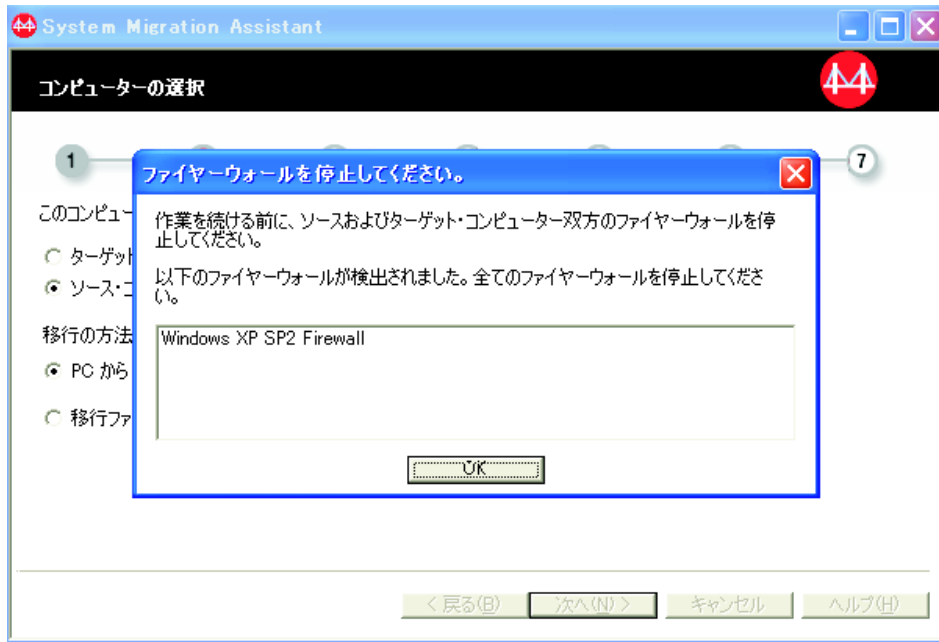
図 49. PC から PC への標準移行の実行:「ファイヤーウォールを停止してください。」ダイアログ

6. ソース・コンピューターのすべてのファイヤーウォールを使用不可に設定してから、「**OK**」をクリックします。「接続の開始」ウィンドウが開きます。
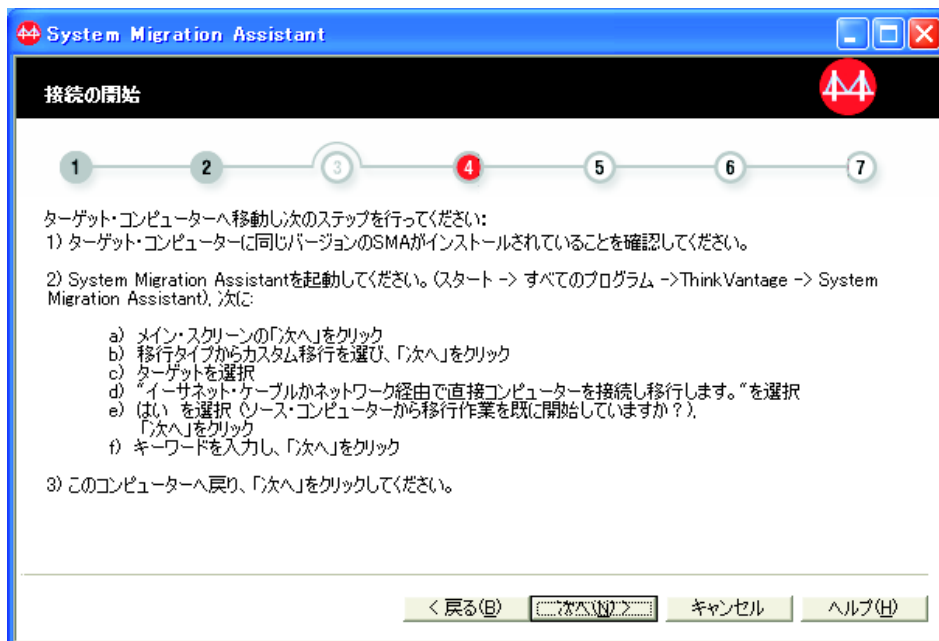
図 50. PC から PC への標準移行の実行:「接続の開始」ウィンドウ

7. ターゲット・コンピューターに向かいます。「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。ThinkVantage の「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
8. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが開きます。
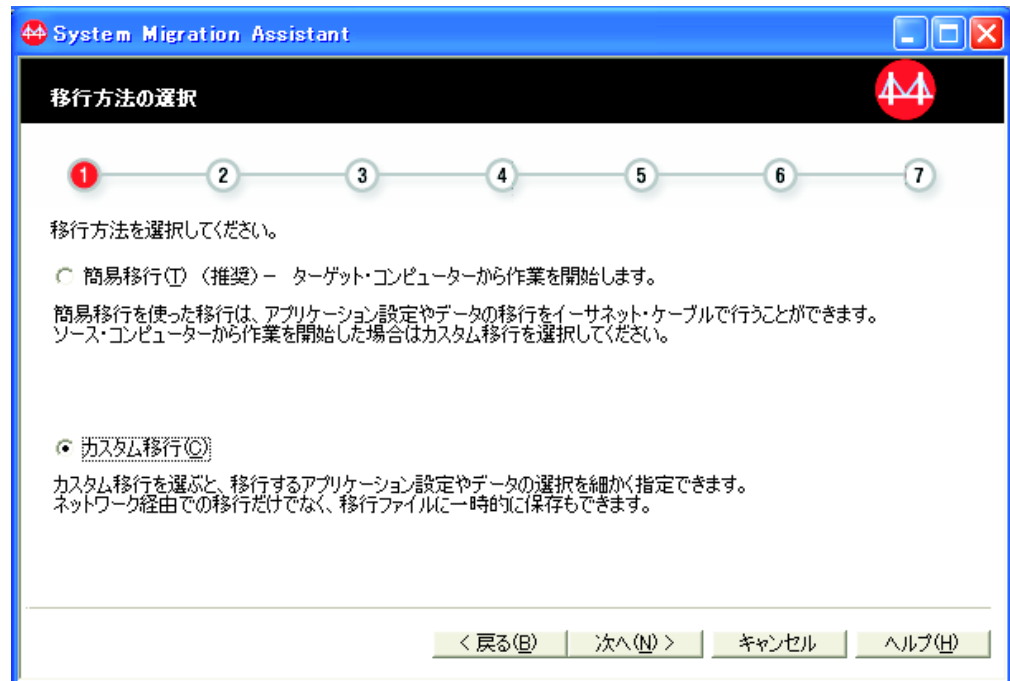
図 51. PC から PC への標準移行の実行:「移行方法の選択」ウィンドウ

9. 「**カスタム移行**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「コンピューターの選択」ウィンドウが開きます。
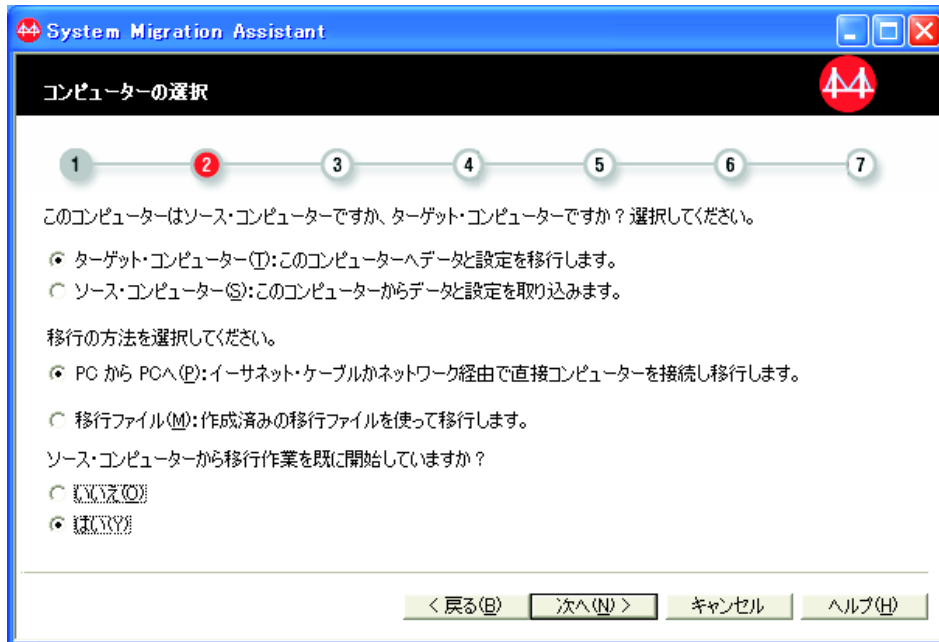
図 52. PC から PC への標準移行の実行:「コンピューターの選択」ウィンドウ

10. 「**ターゲット・コンピューター**」、「**PC から PC へ**」と「**はい**」を選択します。「**次へ**」をクリックします。「ファイヤーウォールを停止してください。」ダイアログが開きます。
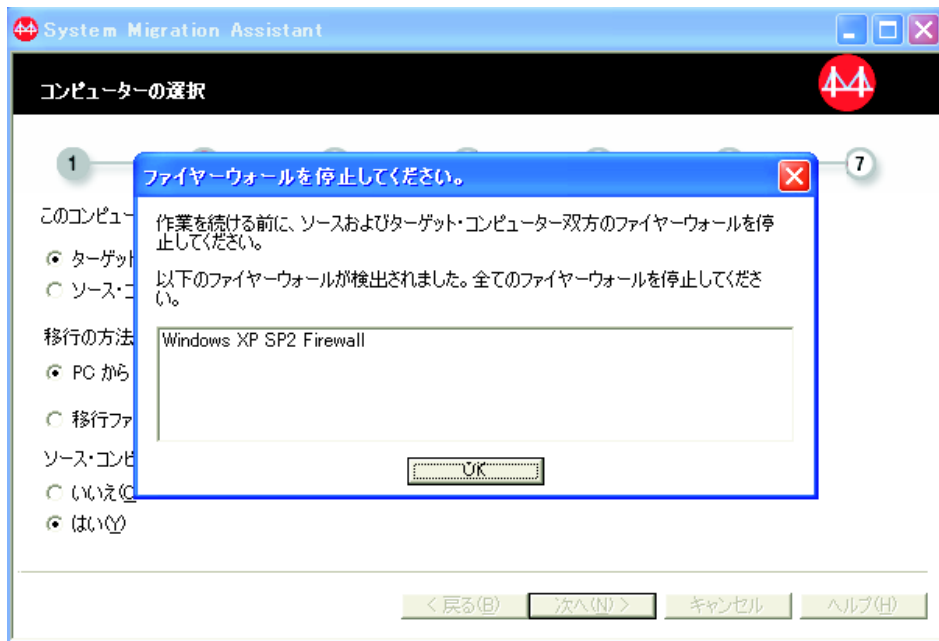
図 53. PC から PC への標準移行の実行:「ファイヤーウォールを停止してください。」ダイアログ

11. ターゲット・コンピューターのすべてのファイヤーウォールを使用不可に設定してから、「**OK**」をクリックします。「接続の開始」ウィンドウが開きます。

図 54. PC から PC への標準移行の実行:「接続の開始」ウィンドウ

12. 「**キーワード**」フィールドに、固有のキーワードを 40 文字以内で入力します。パスまたは特殊文字は含めないでください。このキーワードがソース・コンピューターを識別するのに使用されます。
PC から PC への接続を開始するには、「**OK**」をクリックします。「接続」ダイアログが開きます。
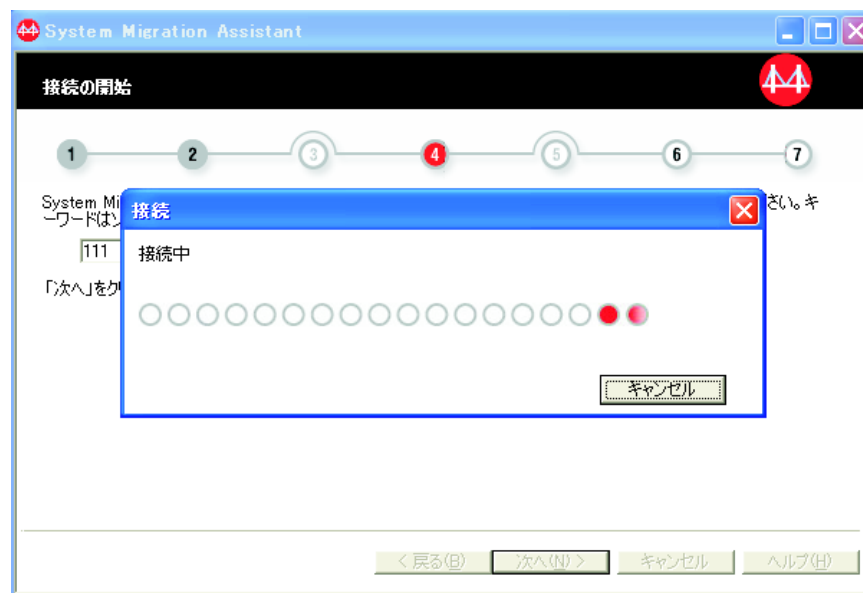
図 55. PC から PC への標準移行の実行:「接続」ダイアログ

13. ソース・コンピューターで「**次へ**」をクリックします。「キーワードの入力」ダイアログが開きます。
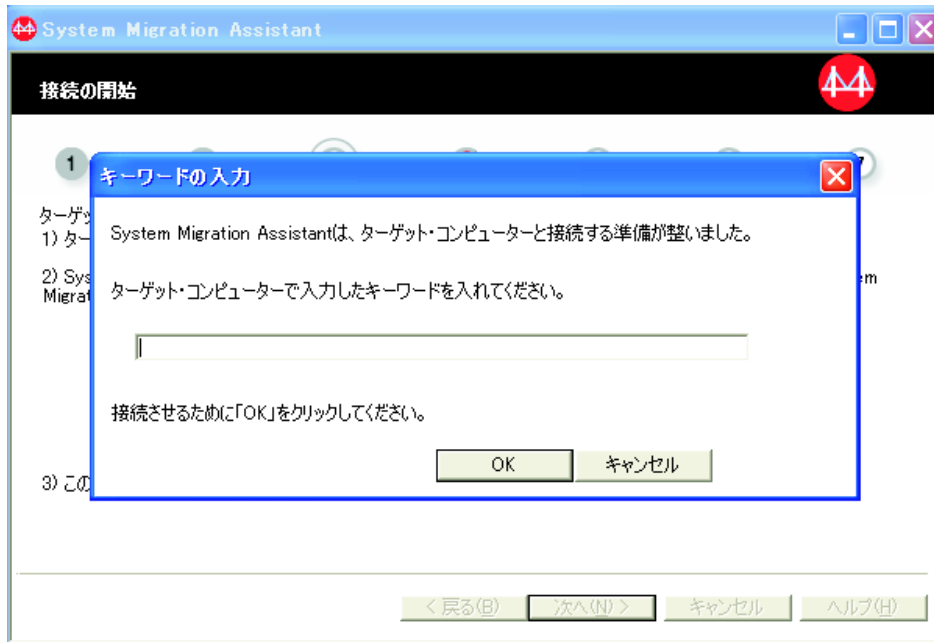
図 56. PC から PC への標準移行の実行:「キーワードの入力」ダイアログ

14. ターゲット・コンピューターに入力したものと同じキーワードを入力します。PC から PC への移行を開始するには、「**OK**」をクリックします。「接続」ダイアログが表示されます。
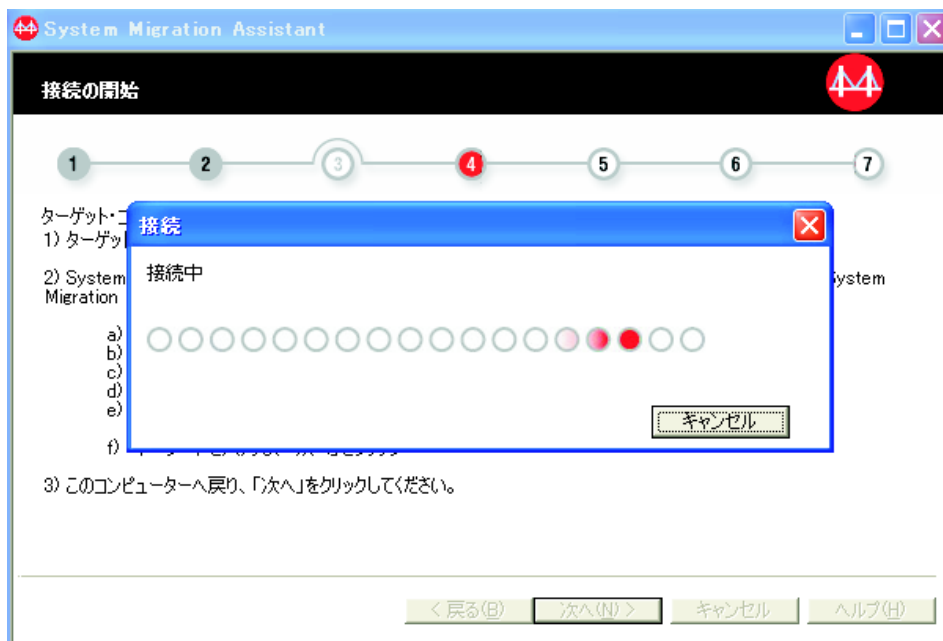
図 57. PC から PC への標準移行の実行:「接続」ダイアログ

15. 接続が確立されると、ターゲット・コンピューターに「待機」ダイアログが開きます。
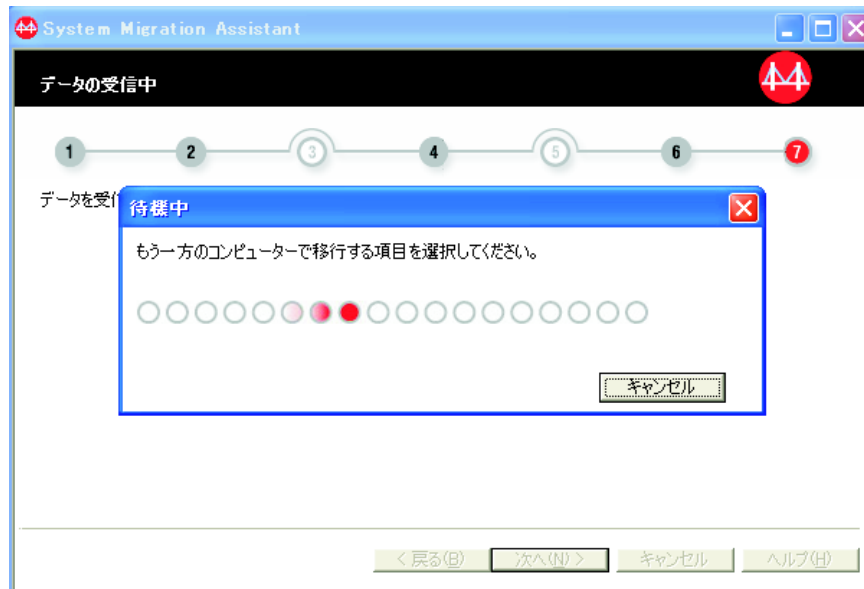
図 58. PC から PC への標準移行の実行:「待機」ダイアログ

16. 接続が確立されると、ソース・コンピューターに「移行オプション」ウィンドウが開きます。移行したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、ステップ 22 から 42 (35 ページ) までを参照してください。

17. 移行する設定とファイルの選択を完了すると、「確認」ダイアログが開きます。「**OK**」をクリックします。

図 59. PC から PC への標準移行の実行:「確認」ダイアログ

18. 「取り込み中」ダイアログが開きます。

図 60. PC から PC への標準移行の実行: 「取り込み中」ダイアログ

図 61. PC から PC への標準移行の実行: 「取り込み中」ダイアログ

設定とファイルの取り込みが完了すると、取り込まれたデータはターゲット・コンピューターに送信されます。「送信中」ダイアログが開きます。
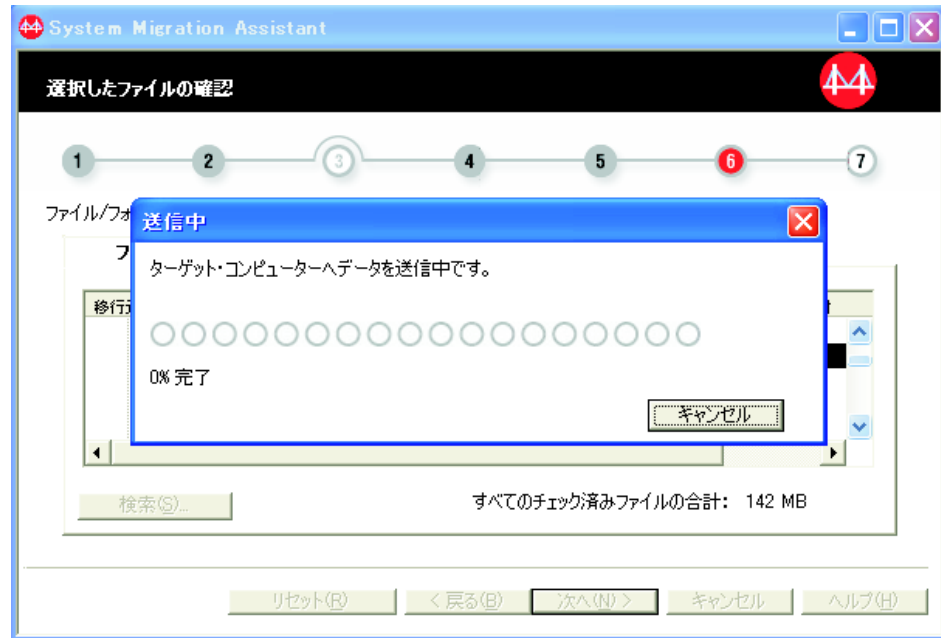
図 62. PC から PC への標準移行の実行:「送信中」ダイアログ

19. ターゲット・コンピューターで「受信中」ダイアログが開き、適用フェーズが開始します。
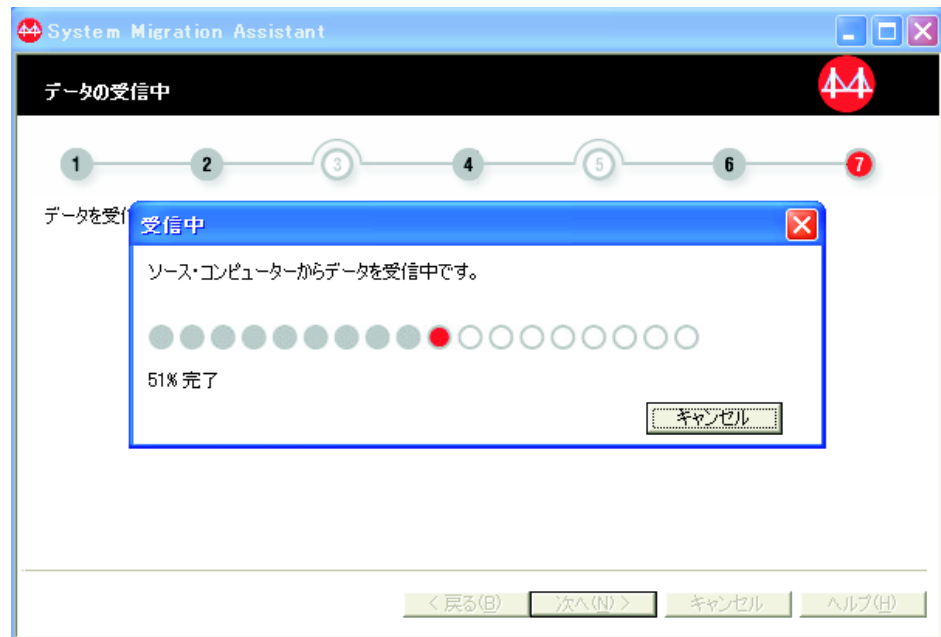
図 63. PC から PC への標準移行の実行:「受信中」ダイアログ

移行ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。

SMA は、移行ファイルをターゲット・コンピューターにコピーしてから、適用します。移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

20. ターゲット・コンピューターがデータを受信するとすぐに、「適用中」ダイアログが開きます。

図 64. PC から PC への標準移行の実行:「適用中」ダイアログ
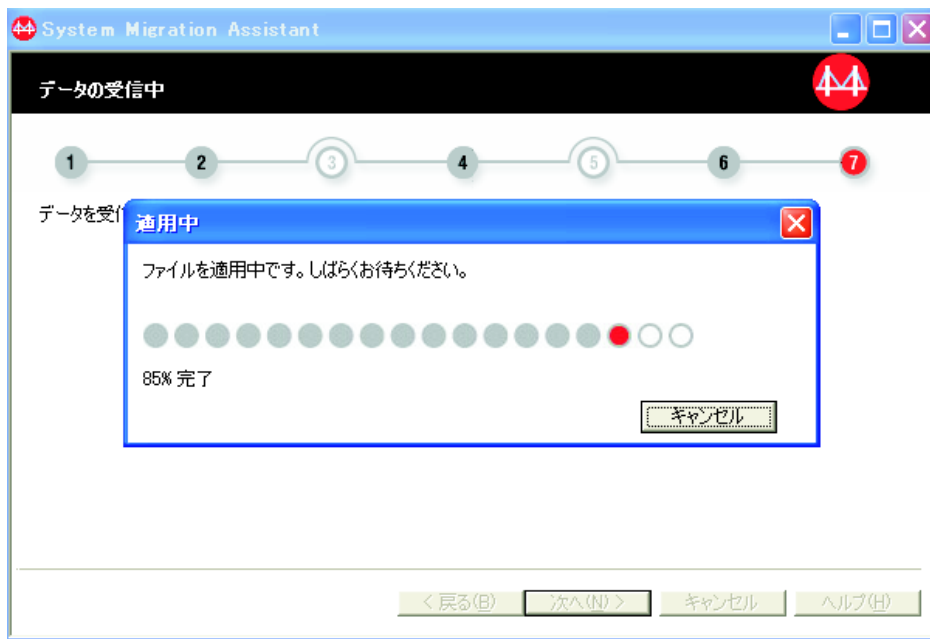
図 65. PC から PC への標準移行の実行:「適用中」ダイアログ

21. 移行ファイルの適用後、両方のコンピューターで「移行サマリー」ウィンドウが開きます。
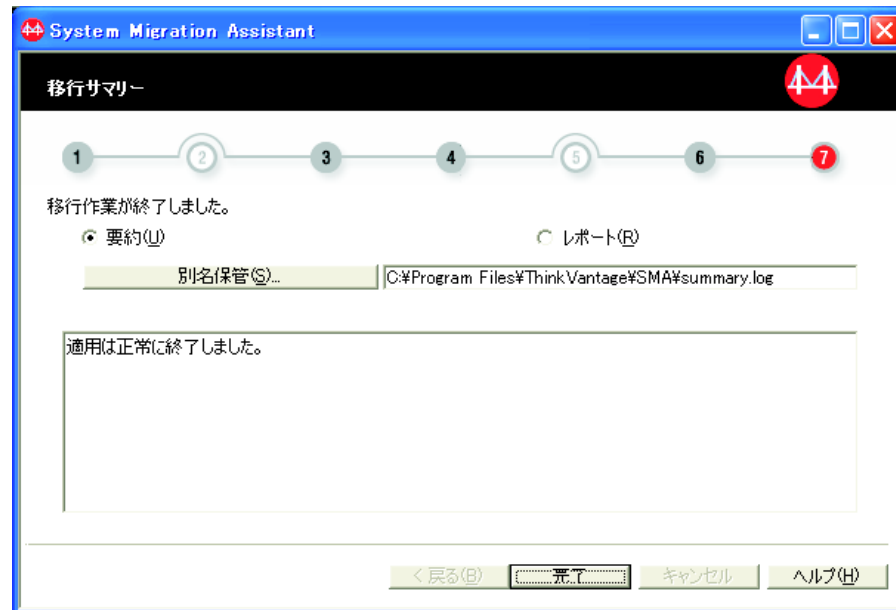
図 66. PC から PC への標準移行の実行:「移行サマリー」ウィンドウ

SMA を終了するには、「**完了**」をクリックします。

22. 要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保存**」をクリックします。
23. ソース・コンピューターで「**完了**」をクリックします。
24. ターゲット・コンピューターで「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。「**OK**」をクリックすると、即時に再起動します。
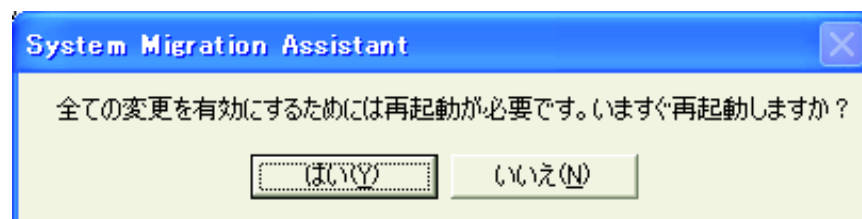
図 67. PC から PC への標準移行の実行:「コンピューターの再起動」ダイアログ

ファイル転送による移行

SMA 移行ファイルの作成

取り込みフェーズで、ソース・コンピューターにログオンし、移行したい設定とファイルが入っている SMA 移行ファイルを作成します。移行ファイルは、次に 1 つ以上のターゲット・コンピューターに適用できます。

SMA 移行ファイルを作成するには、次のようにします。

注: 移行を開始する前に、必ずすべてのアプリケーションを閉じてください。

1. 移行したいオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ソース・コンピューターにログオンします。
2. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。ThinkVantage の「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。
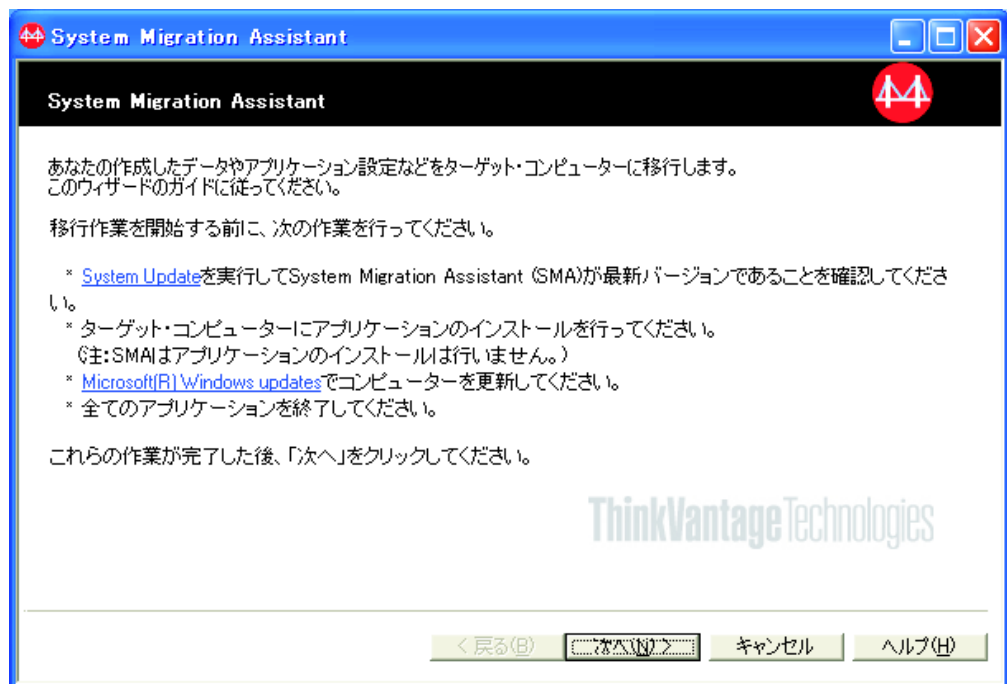
図 68. 標準ファイル転送による移行の実行: 「ThinkVantage System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが開きます。
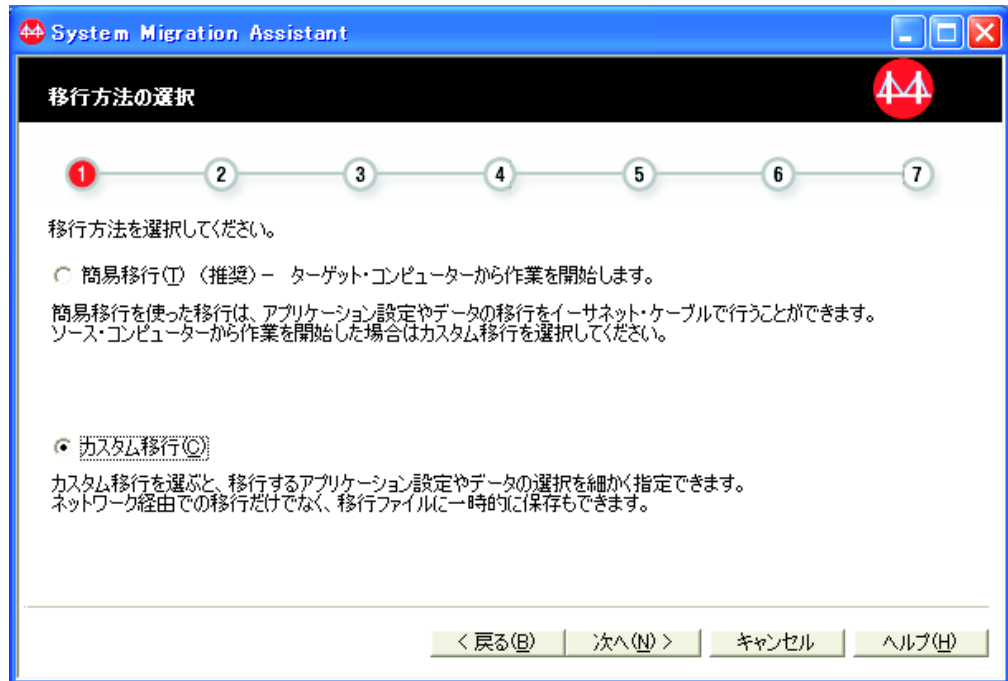
図 69. 標準ファイル転送による移行の実行:「移行方法の選択」ウィンドウ

4. 「**カスタム移行**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「コンピューターの選択」ウィンドウが開きます。
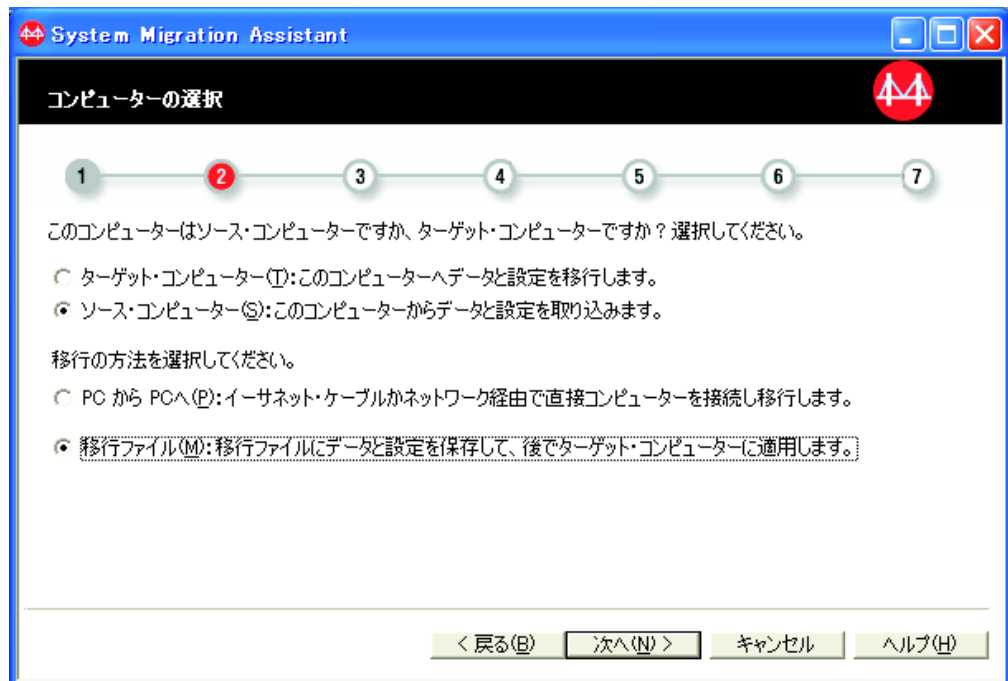
図 70. 標準ファイル転送による移行の実行:「コンピューターの選択」ウィンドウ

5. 「**ソース・コンピューター**」および「**移行ファイル**」を選択します。

6. 「**次へ**」をクリックします。
7. 移行したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、16 ページの『PC から PC への移行』のステップ 23 (25 ページ) から 40 (34 ページ) までを参照してください。「**次へ**」をクリックします。
8. 「パスワード保護」ダイアログが開きます。
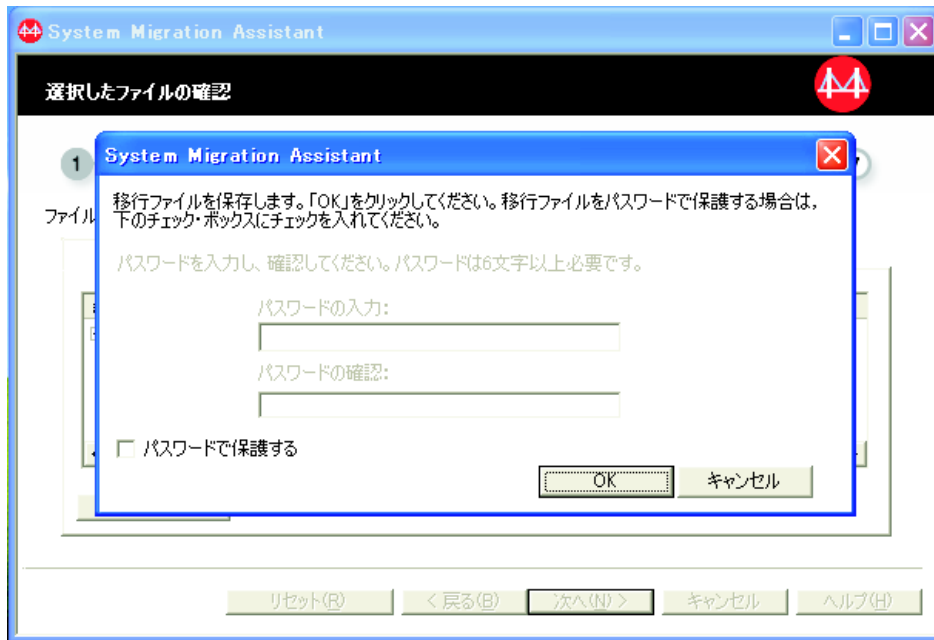
図 71. 標準ファイル転送による移行の実行:「パスワード保護」ダイアログ

SMA 移行ファイルをパスワードで保護するには、次の手順を実行します。

a. ダイアログの最下部で「パスワードで保護する」チェック・ボックスを選択します。
b. 「**パスワードの入力**」フィールドにパスワードを入力します。パスワードの長さは 6 文字から 16 文字までとし、先頭または末尾に数字を指定することはできず、同一文字を連続して指定することもできません。
c. 「**パスワードの確認**」フィールドにパスワードを再入力します。

次のステップに進むために「**OK**」をクリックします。「**キャンセル**」をクリックした場合は、ステップ 7 に戻ります。

9. 「名前を付けて保存」ダイアログが開きます。
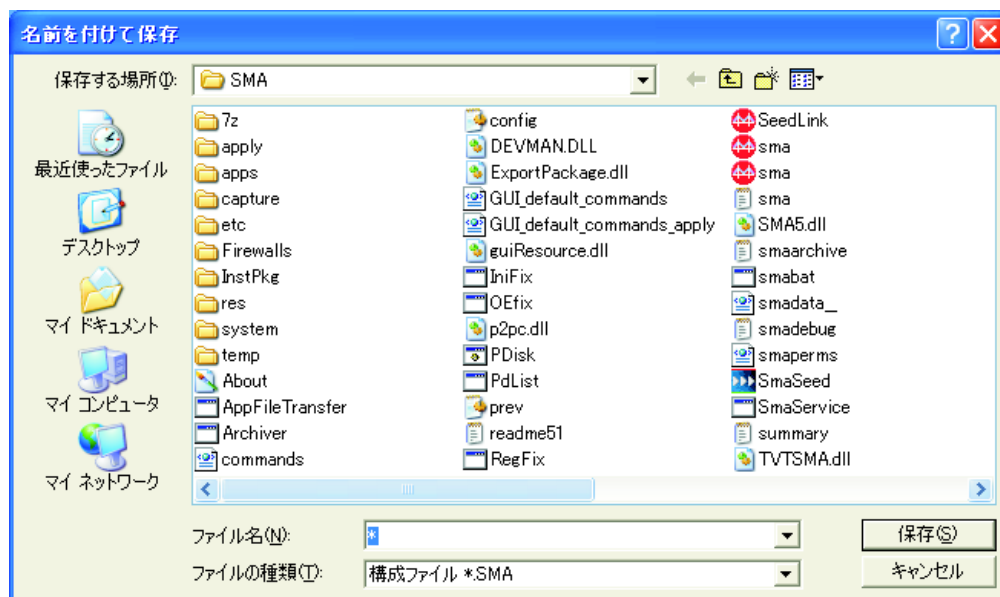
図 72. 標準ファイル転送による移行の実行:「名前を付けて保存」ダイアログ

10. 「**保存する場所**」フィールドで、移行ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。「**ファイル名**」フィールドに、移行ファイルの名前を入力します。その後、「**保存**」をクリックします。

注: *d*:¥_SMA directory は選択しないでください。ここで、*d*: は SMA がインストールされているドライブです。このディレクトリーは SMA が使用する一時フォルダーです。

11. 「取り込み中」ダイアログが開きます。

図 73. 標準ファイル転送による移行の実行:「取り込み中」ダイアログ

図 74. 標準ファイル転送による移行の実行:「取り込み中」ダイアログ

次に、「保存」ダイアログが開きます。

図 75. 標準ファイル転送による移行の実行:「保存」ダイアログ

SMA は、設定とファイルを移行ファイルにコピーします。移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

12. 移行ファイルの作成後、「移行サマリー」ウィンドウが開きます。
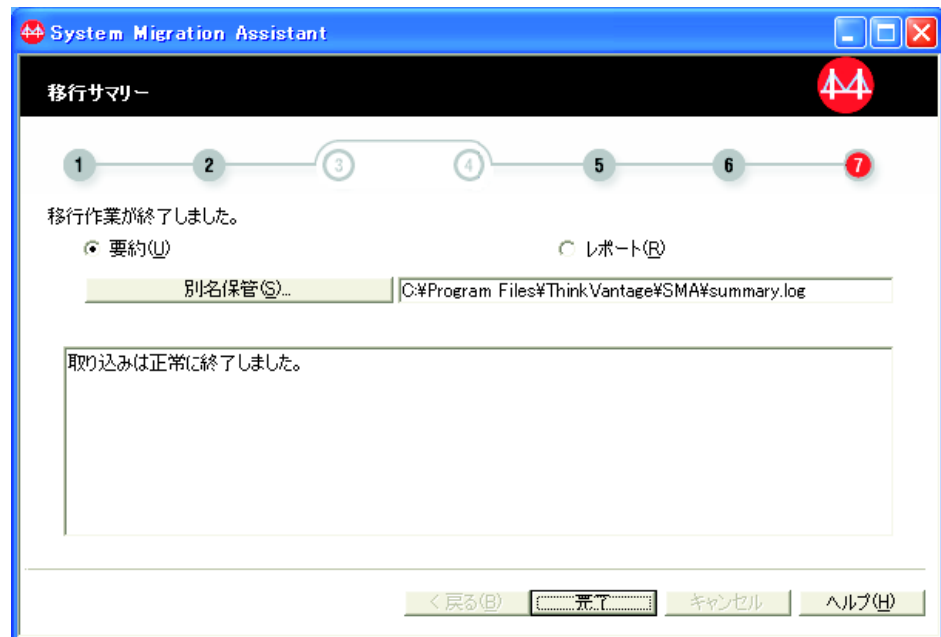
図 76. 標準ファイル転送による移行の実行:「移行サマリー」ウィンドウ

13. 要約またはレポート・ファイルをウィンドウで指定されたディレクトリーとは別のディレクトリーに保管するには、次のようにします。

a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。
c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。
d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
e. 「**保存**」をクリックします。

14. ソース・コンピューターで「**完了**」をクリックします。

SMA 移行ファイルの適用

注: 移行ファイルにドメイン設定が含まれている場合は、ターゲット・コンピューターに新規のオペレーティング・システム・アカウントを作成してから移行ファイルを適用してください。

SMA 移行ファイルをターゲット・コンピューターに適用するには、次のようにします。

1. 移行ファイルを作成するときに使用したオペレーティング・システム・アカウントと同じアカウントを使用して、ターゲット・コンピューターにログオンします。

   注:

   a. ソース・コンピューターでマルチ・ユーザー・アカウントを取り込む場合は、移行ファイルを取り外し可能メディアから、またはネットワーク・ドライブからローカルのハード・ディスクにコピーします。そうしなければ、SMA はユーザー・アカウント設定を正しく移行できません。
   b. ターゲット・コンピューターへのログオン時に使用するオペレーティング・システム・アカウントがソース・コンピューターで使用したものと異なっていると、アプリケーション固有の一部のユーザー設定が適用されない場合があります。

2. 「**スタート**」 → 「**すべてのプログラム**」 → 「**ThinkVantage**」 → 「**System Migration Assistant**」の順にクリックします。ThinkVantage の「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

3. 「**次へ**」をクリックします。「移行方法の選択」ウィンドウが開きます。
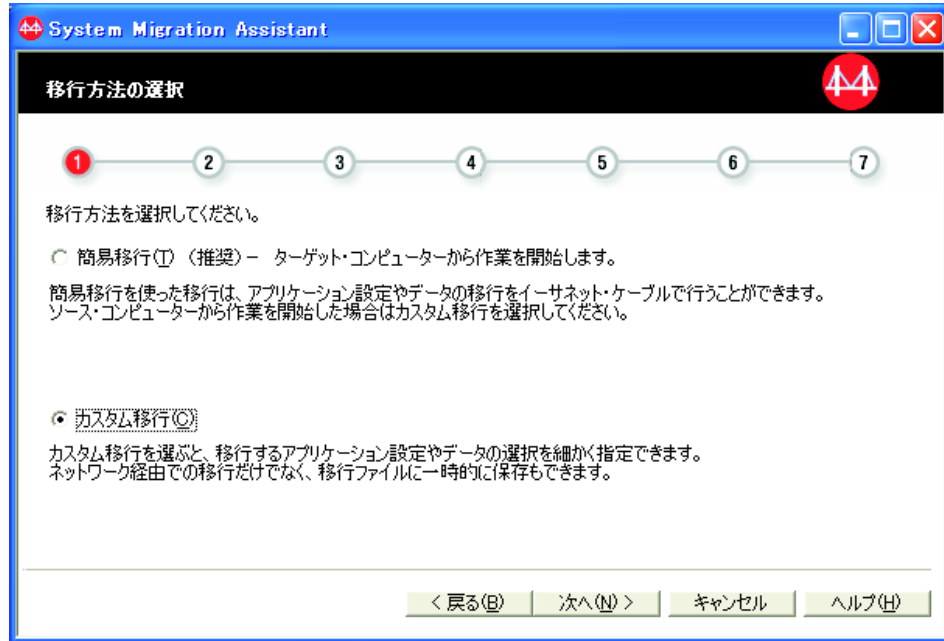
図 77. 標準ファイル転送による移行の実行:「移行方法の選択」ウィンドウ

4. 「**カスタム移行**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「コンピューターの選択」ウィンドウが開きます。
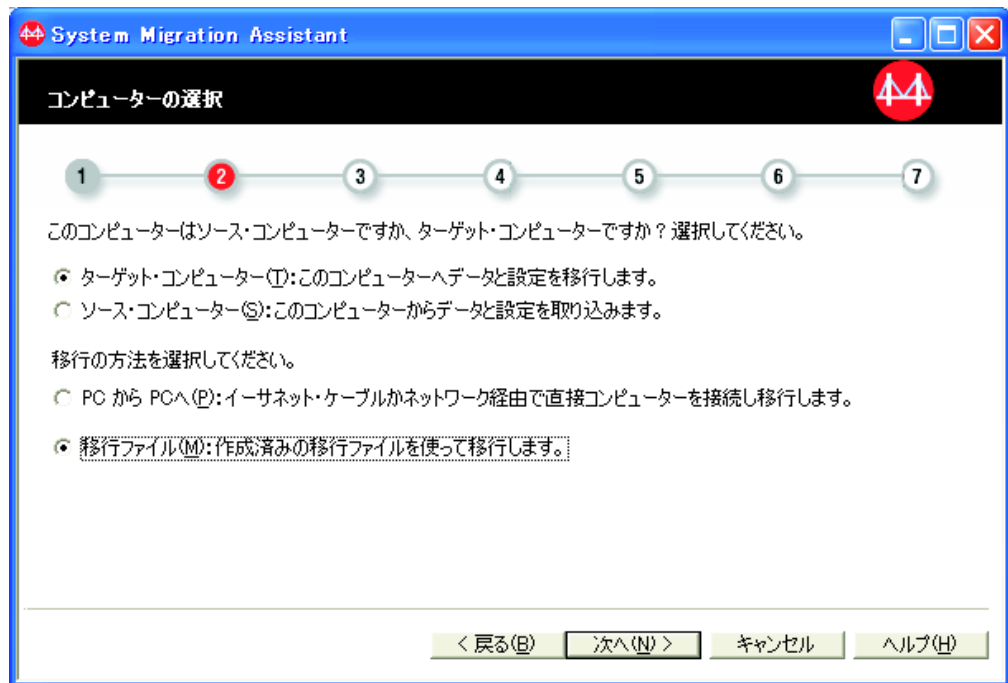
図 78. 標準ファイル転送による移行の実行:「コンピューターの選択」ウィンドウ

5. 「**ターゲット・コンピューター**」および「**移行ファイル**」を選択します。「**次へ**」をクリックします。「ファイルを開く」ダイアログが開きます。
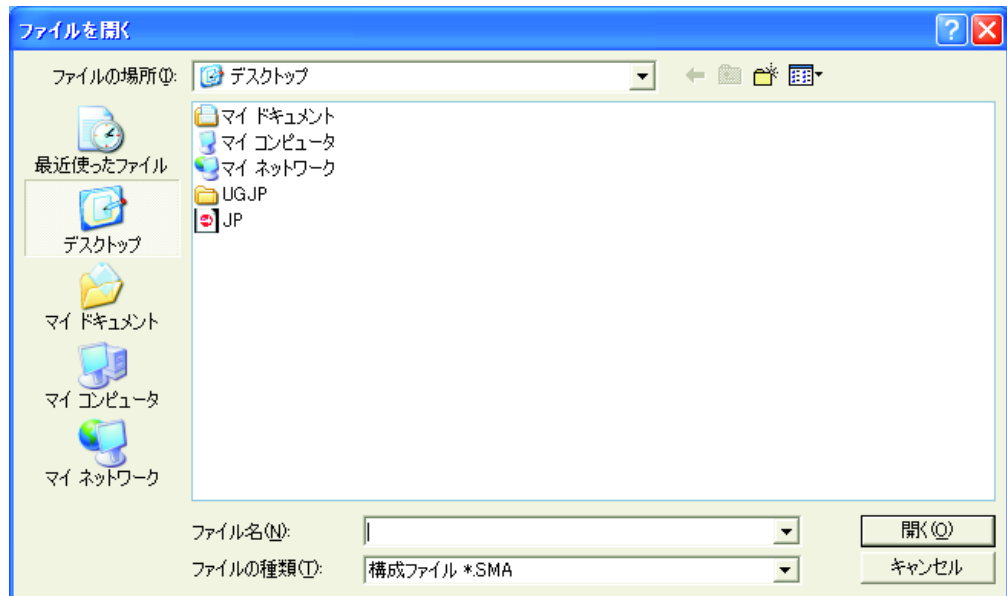
図 79. 標準ファイル転送による移行の実行:「ファイルを開く」ウィンドウ

6. 「**ファイルの場所**」フィールドで、移行ファイルを開くフォルダーにナビゲートします。「**ファイル名**」フィールドに、移行ファイルの名前を入力します。その後、「**開く**」をクリックします。
7. 移行ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。
8. 適用したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、 16 ページの『PC から PC への移行』のステップ 23 (25 ページ) から 40 (34 ページ) までを参照してください。

9. 「適用中」ダイアログが開きます。「**OK**」をクリックします。
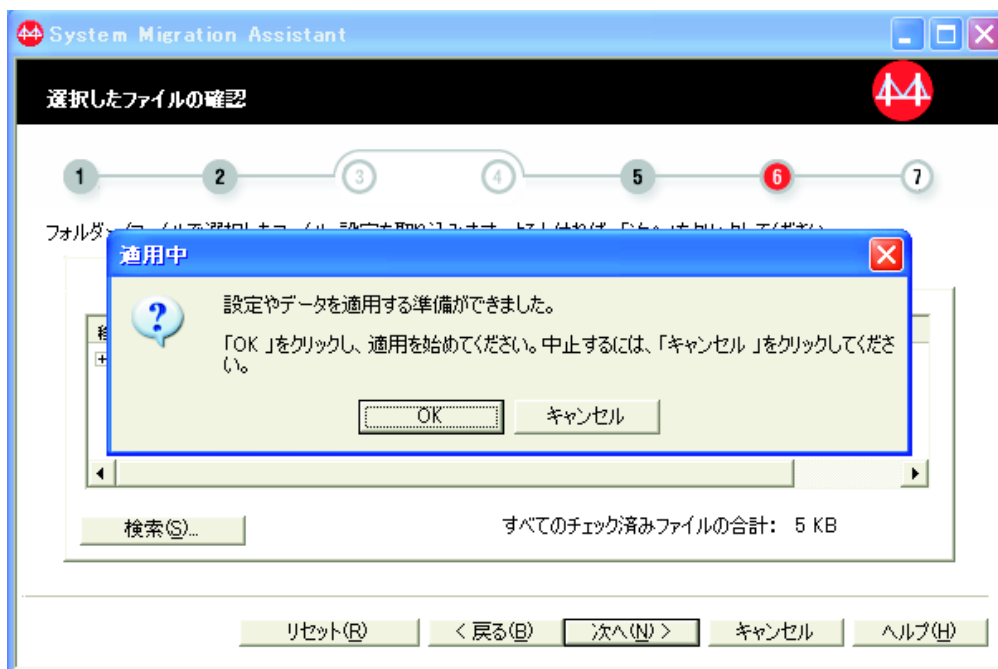
図 80. 標準ファイル転送による移行の実行:「適用中」ダイアログ

10. 「適用中」ダイアログが開きます。

図 81. 標準ファイル転送による移行の実行:「適用中」ダイアログ

図 82. 標準ファイル転送による移行の実行:「適用中」ダイアログ

SMA は、移行ファイルをターゲット・コンピューターにコピーします。コピーする設定とファイルの数によっては、コピー操作に数分かかることがあります。

重要: 「**キャンセル**」をクリックしてコピー・プロセスを停止することができます。ただし、SMA による移行処理中のすべての未完了設定も含め、「**キャンセル**」をクリックする前に完了したすべての変更が適用されます。適用された設定によっては、オペレーティング・システムが不安定になったり、失敗したりすることがあります。

11. 移行ファイルの適用後、ターゲット・コンピューターに「移行サマリー」ウィンドウが開きます。
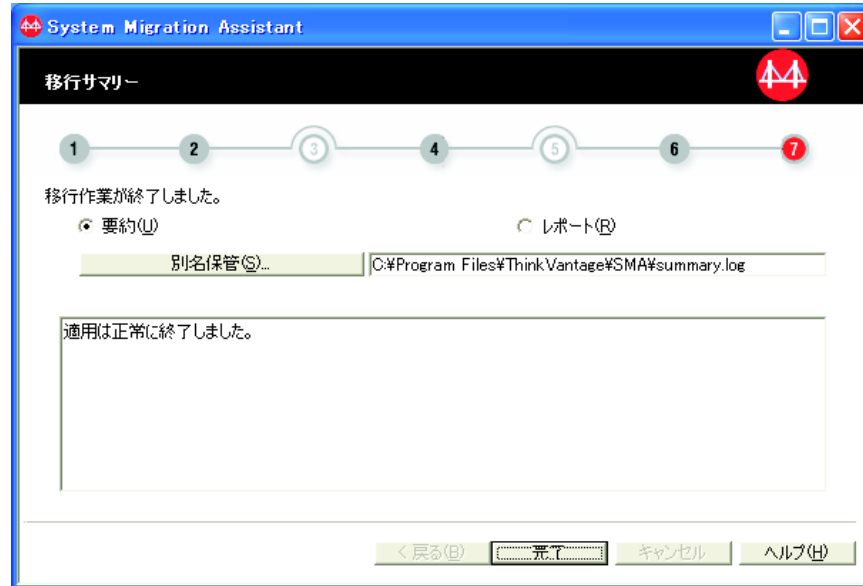
図 83. 標準ファイル転送による移行の実行:「移行サマリー」ウィンドウ

SMA を終了するには、「**完了**」をクリックします。要約またはレポート・ファイルを別のディレクトリーに保管する場合は、次の手順を実行してその要約またはレポート・ファイルを保管できます。

a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。

b. 「**別名保管...**」をクリックします。「名前を付けて保存」ウィンドウが開きます。

c. 「**保存する場所**」フィールドで、ファイルを保存したいディレクトリーにナビゲートします。

d. 「**ファイル名**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。

e. 「**保存**」をクリックします。

12. 「**完了**」をクリックします。コンピューターを再起動するように指示するプロンプトが表示される場合があります。

13. コンピューターを即時に再起動する場合は、「**OK**」をクリックします。
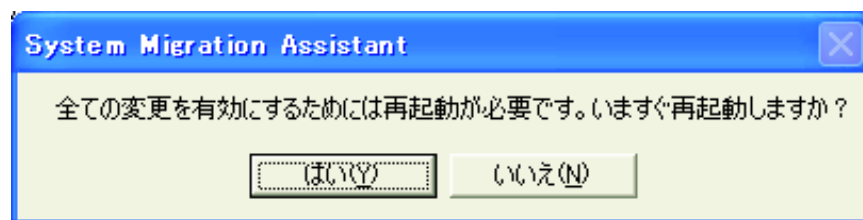
図 84. 標準ファイル転送による移行の実行:「コンピューターの再起動」ウィンドウ

第 4 章 拡張管理トピック - GUI のカスタマイズ

GUI は構成ファイル config.ini (次のディレクトリーにあります) を変更することにより、カスタマイズ可能です。

`d:¥Program Files¥ThinkVantage¥SMA`

ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。

構成ファイルには次の特性があります。

- セミコロン「;」の後に続くテキストはコメントとして扱われます。セミコロンはテキストの先頭に置く必要があり、他の文字がそれより前にあることは許されません。
- このファイルのテキストは大/小文字の区別はされません。

表 3 に、config.ini で制御される GUI コンポーネントの説明を記載します。

表 3.

config.ini のセクション名	**GUI のウィンドウ・タイトル**	**ウィンドウの説明**
Splash_page		SMA を開始したときに表示されるスプラッシュ画面
Welcome_Page	System Migration Assistant	ようこそページ
Begin_Page	移行方法の選択	移行方法の選択 - 標準またはカスタム
TopOptions_Page	コンピューターの選択	コンピューターの選択 - ソースまたはターゲット。 移行タイプの選択 - PC から PC またはファイル。 移行タイプの選択 - ターゲット主導またはソース主導。
MigOptions_Page	移行項目の選択	取り込む項目の選択
Profile_Page	移行項目の選択	移行するユーザー・プロファイルの選択
Desktop_Page	移行項目の選択	移行するデスクトップ項目の選択
Applications_Page	移行項目の選択	移行するアプリケーション設定の選択
Network_Page	移行項目の選択	移行するネットワーク設定の選択
Printers_Page	移行項目の選択	移行するプリンターの選択
Selection_Page	選択したファイルの確認	移行するファイルとフォルダーの選択
InstallMethod_Page	インストール方法の選択	ソース・コンピューターに SMA をインストールするために使用するネットワーク、あるいは取り外し可能ストレージ・デバイスの選択
P2P_Logon_Page	接続の開始	ログオン名とパスワードを入力するためのビュー

表 3. (続き)

config.ini のセクション名	**GUI のウィンドウ・タイトル**	**ウィンドウの説明**
P2P_Auto_SRC_Page	接続の開始	ターゲット主導による移行において、接続が確立されるときにソース・コンピューターに表示される最初のバックグラウンド・ビュー
P2P_Manual_TGT_Page	接続の開始	ターゲット主導による PC から PC への移行において、追加オプションとして「**マニュアル**」が選択されたときに「**ターゲット・コンピューター**」に表示されるガイド・ビュー
P2P_Manual_SRC_Page	接続の開始	ターゲット主導による PC から PC への移行において、追加オプションとして「**マニュアル**」が選択されたときに「**ソース・コンピューター**」に表示されるガイド・ビュー
P2P_SourceIni_Page	接続の開始	ソース主導による PC から PC への移行において、「**ソース・コンピューター**」に表示されるガイド・ビュー
P2P_Keyword_Page	接続の開始	ソース主導による PC から PC への移行において、ターゲット・コンピューターに表示されるキーワードを入力するためのビュー
Receive_Data_Page	データの受信	PC から PC への移行において、ターゲット・コンピューターがソース・コンピューターからのデータ受信を待機している間に表示されるバックグラウンド・ビュー
Log_Page	移行サマリー	移行の要約のビュー

config.ini のカスタマイズは、表 4 で説明されているそれぞれの変数の値を変更することにより行うことができます。

表 4. config.ini の変数のカスタマイズ

変数	**値**	**デフォルト**	**説明**
Configuration_File_Show_ Configuration_Messages	「Yes」または「No」	No	SMA が config.ini ファイルを解釈するときにエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。

表 4. config.ini の変数のカスタマイズ (続き)

変数	値	デフォルト	説明
Import_Command_File	完全修飾ファイル名	GUI_Default_Commands.xml	コマンド・ファイルの名前とパスを指定します。デフォルトの取り込み選択項目のうち、パスワード保護の設定を除くすべての項目をコマンド・ファイルでカスタマイズできます。デフォルトで移行ファイルがパスワードによって保護されるようにするには、Enable_Password_protection を config.ini の中で「Yes」に設定してください。
Import_Command_File_ For_Apply	完全修飾ファイル名	GUI_Default_Commands_ Apply.xml	コマンド・ファイルの名前とパスを指定します。デフォルトの適用選択項目のうち、パスワード保護の設定を除くすべての項目をコマンド・ファイルでカスタマイズできます。
Export_Command_File	完全修飾ファイル名	*(インストールしたディレクトリー)*¥etc¥data¥commands.xml	コマンド・ファイルの名前とパスを指定します。
Just_Create_Command_File	「Yes」または「No」	No	移行ファイルを作成するかどうかを指定します。移行ファイルを作成せずにコマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、Just_Create_Command_File を「Yes」に設定します。これによって、コマンド・ファイルが Export_Command_File の指定どおりに生成されます。
Enable_4GFat32_warning	「Yes」または「No」	Yes	移行ファイルが 4 GB より大きい場合は、「Yes」に設定して、移行ファイルが FAT32 区画に書き込めないことをユーザーに警告します。
Show_Previous_File_ Selection_Dialog	「Yes」または「No」	Yes	SMA が前に選択済みファイルを選択するかどうかを尋ねるようにするには、「Yes」に設定します。
Show_P2P_Messagebox	「Yes」または「No」	Yes	PC から PC への移行の間、キーワード・ダイアログと接続中ダイアログを表示させるときは「Yes」に設定します。
Show_Start_Processing_ Dialog	「Yes」または「No」	Yes	SMA 移行ファイルからの設定を作成または適用するプロセスを開始するためのプロンプトを表示させるときは、「Yes」に設定します。

表 4. *config.ini* の変数のカスタマイズ *(続き)*

変数	値	デフォルト	説明
Show_Reboot_Dialog	「Yes」または「No」	Yes	適用フェーズで、コンピューターを再起動するプロンプトを表示させたいときは、「Yes」に設定します。「No」に設定すると、SMA はコンピューターを再起動しません。
Show_All_Progressbar_ Dialogs	「Yes」または「No」	Yes	「Yes」に設定すると、以下の進行状況表示バー・ダイアログが表示されます。 • Scanning files and folders • Building files and folders tree • Capturing/Applying settings • Capturing/Applying files • Saving migration files • Sending data • Waiting to receive data • Receiving data • Extracting .SMA file
Show_All_Warning_Dialogs	「Yes」または「No」	Yes	すべてのアプリケーションをターゲット・コンピューターにインストールすることへのリマインダー、ファイヤーウォールを使用不可に設定するダイアログ、および新規フォルダーを作成することへのリマインダーを含む、すべての警告メッセージを表示させるときは、ここを「Yes」に設定します。
Enable_Password_ Protection	「Yes」または「No」	Yes	パスワード保護のチェック・ボックスを使用可能に設定するときは、「Yes」に設定します。このオプションは、ソース・コンピューターのみに適用できます。

- ページ表示オプション

変数
: *Specific page*_Show_Page

値
: 「Yes」または「No」

デフォルト値
: Yes

説明
: SMA の実行時に指定したウィンドウが開かないようにするには、この変数を「No」に設定します。それ以外の場合は、この変数を「Yes」に設定するか、何も指定しないでおきます。ウィンドウが表示されない場合、SMA はインポートされたコマンド・ファイルに指定されているデフォルト設定の取り込みまたは適用を行います。

注: Show_All_Progressbar_Dialogs を「No」に設定すると、SMA はデスクトップ設定カテゴリーのタスクバー設定を除く、すべてのデータと設定を移行できます。

- ウィンドウ・タイトルのオプション

変数	*Specific page*_Title
値	代替テキスト
デフォルト値	System Migration Assistant
説明	この変数では、ウィンドウ・タイトルとして表示される代替テキストを指定します。

- ガイダンス・テキストのオプション

変数	*Specific page*_Guidance_Text
値	代替テキスト
デフォルト値	各ビューの参照
説明	この変数では、ガイダンス・テキストとして表示される代替テキストを指定します。

- スプラッシュ表示させるページのオプション

変数	Splash_Page_Display_Time
値	Number (sec)
デフォルト値	2
説明	この変数では、スプラッシュ画面が表示される時間を秒数で指定します。使用したい場合は、Splash_Page_Show_Page を「Yes」に設定します。

- 開始ページのオプション

変数	Begin_Page_Choice_Type
値	Typical または Custom
デフォルト値	なし
説明	この変数は移行タイプが標準かカスタムかを指定します。

- TopOptions ページのオプション

変数	TopOptions_Page_Choice_Mode
値	Source または Target
デフォルト値	なし
説明	この変数は移行モードを指定します。

変数	TopOptions_Page_Choice_TransferMode
値	PC to PC または File Transfer
デフォルト値	なし
説明	この変数は移行方法を指定します。取り込んだファイルと設定を直接ターゲット・コンピューターに送るには、この変数を PC to PC に設定します。取り外し可能ストレージ・デバイスを使用してファイルと設定をコピーするには、この変数を File Transfer に設定します。

変数	TopOptions_Page_Target_Initiated_Migration

値　「Yes」または「No」
デフォルト値　なし
説明　すでに TopOptions_Page_Choice_Mode が Target に設定されている場合は、Target Initiated Migration を指定できます。この変数を「Yes」に設定すると、SMA がソース・コンピューターで開始されていない場合に、ターゲット主導による移行を選択することができます。

- インストール方法ページのオプション

変数　SpecificPage_Choice_xxxx
値　Display または Hide
Enable または Disable
Checked または unchecked (このオプションは Migration Options ページ専用です)
デフォルト値　Display、Enable、および Checked
説明　これらの変数は、以下のページ上の移行選択の構成を指定します。
- Migration Options
- User Profile
- Desktop settings
- Network settings
- Application settings
- Printers

- Applications ページのオプション

変数　Applications_Page_Show_Registry_Button
値　「Yes」または「No」
デフォルト値　No
説明　この変数はアプリケーション・ファイルの Registry ボタンの表示方法を指定します。

- Files and Folders ページのオプション

変数　Selection_Page_File_Quota
値　数値 (MB)
デフォルト値　なし
説明　この変数は、取り込むことができる解凍データの最大量を指定します (MB 単位)。

変数　Selection_Page_File_Warning_Message
値　代替メッセージ
デフォルト値　なし
説明　この変数は、特定の拡張子を持つ移行ファイルが選択されたときに表示される、代替警告メッセージを指定します。

変数　Selection_Page_File_Warning_Extensions
値　ファイル拡張子
デフォルト値　なし

説明	この変数は、特定の拡張子を持つ移行ファイルを選択したときに警告メッセージが出るようにする場合に、そのファイル拡張子を指定します。それぞれの拡張子は、別々の行に指定しなければなりません。たとえば、次のとおりです。

```
[Selection_Page_Warning_Extensions_Start]
exe
com
dll
[Selection_Page_Warning_Extensions_End]
```

付録 A. 移行可能なアプリケーション設定

この付録では、SMA で移行できるアプリケーションと設定をリストしています。オペレーティング・システム、移行シナリオ、およびソース・マシンとターゲット・マシンのアプリケーション・バージョンの違いなどによって、異なる結果が生じる可能性があります。ユーザー設定を含むファイルをデフォルト・フォルダー以外の場所に保存すると、アプリケーション設定が正しく移行されない場合があります。こうした場合、最初にご使用の環境に従ってアプリケーション・ファイルを編集し、その後にアプリケーション設定を移行するようにしてください。

ソース PC とターゲット PC に違うバージョンのアプリケーションがインストールされている場合は、ターゲット PC のバージョンの方が新しいことが必要です。

表 5. 移行可能なアプリケーション設定

アプリケーション	設定	注記
ThinkVantage Access Connections バージョン 3.x および 4.x	ロケーション・プロファイル	
ThinkVantage Client Security Solution バージョン 7.0	• パスフレーズおよび Windows ログオン・パスワード • Policy Manager の設定 • パスワード・マネージャー 　– パスワード・マネージャーの項目 　– 設定 • Private Disk 　– Private Disk ボリューム 　– Private Disk の設定	システム・ドライブの Private Disk ファイルだけが移行できます。 Private Disk がマウントされていると SMA を使用した移行は実行できません。移行を始める前にすべての Private Disks をアンマウントしてください。Private Disk のアンマウント方法については、ThinkVantage Client Security Solution のヘルプを参照してください。 ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、Private Disk は正しく移行されません。
ThinkVantage Rescue and Recovery v.1.0、2.0、3.0、および 3.1	• バックアップに組み込まれる、または除外されるファイルのリスト • バックアップ・スケジュール	
ThinkVantage System Update	Update のスケジュール	
Adobe Acrobat Reader 5.0 および Adobe Acrobat Reader 6.0、7.0	• アクセシビリティ • 注釈 • ユーザー情報 • フルスクリーン・モード • アップデート • Web Buy	Adobe Acrobat Reader 5.0 から Adobe Reader 6.0 または 7.0 に移行する場合、一部のアプリケーション設定が移行できません。
AT&T Network Client 5.0	• 一般 • 拡張電話設定	

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
IBM Global Network® Dialer 4.0 Windows 2000 Professional または Windows 2000 Server で稼働するターゲット・コンピューターのみをサポートします。	• アクセス • 外観 • プログラム • ブラウザー • メール • ニュース • サーバー	
Lotus Notes バージョン 4.x、5.x、6.x、および 7.x	• デスクトップ • ID ファイル • INI ファイル • アドレス帳 • データベース • 辞書	異なるバージョン間で移行する場合、一部のアプリケーション設定が移行できません。
Lotus Organizer® バージョン 6.0	• To Do プリファレンス • 環境 • アラーム • 祝日の設定 • 記念日	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます。 Lotus Notes は例外です。 良い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Lotus¥Wordpro¥ C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Program files¥Wordpro¥ D:¥Lotus¥Organizer¥

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Lotus SmartSuite® for Windows バージョン 9.7 および 9.8	• アプローチ – 設定 - 表示 - 一般 • 表示 • ナビゲーション • Freelance Graphics® – 設定 – ビュー • Lotus 1-2-3® – 設定 - 一般 - 新規ワークブック・デフォルト - 再計算 - 互換メニュー – ビュー • Word Pro – 設定 - 一般 - ファイル指定 - 個人情報 - オプション • SmartCenter フォルダー・オプション (カラーおよびアイコン)	Lotus アプリケーションは、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされている場合に限り移行することができます。 Lotus Notes は例外です。 良い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Lotus¥Wordpro¥ C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Program files¥Wordpro¥ D:¥Lotus¥Organizer¥ 「設定」内の「場所」の設定は移行されません。
McAfee VirusScan 7.0	• 検出 • システム・スキャン/アクション • システム・スキャン/レポート • システム・スキャン/除外 • E メール・スキャン/検出 • E メール・スキャン/アクション • E メール・スキャン/アラート • E メール・スキャン/レポート • スクリプト・ストッパー	McAfee VirusScan バージョン 7.0 からバージョン 8.0 への移行はサポートされていません。
McAfee VirusScan 8.0	• VirusScan オプション • ActiveShield – E メール・スキャン – ScriptStopper – WormStopper • ウィルス・マップ・レポート • スケジュール・スキャン	

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Access バージョン 2000、 2003、および XP	• ツールバー • オプション • ビュー • 一般 • 検索 • キーボード • データ・シート • レポート作成 • 拡張オプション • 照会	
Microsoft Internet Explorer バージョン 5.0、5.5、および 6.0	• お気に入り • 表示 • オプション • アクセシビリティ	
Microsoft NetMeeting バージョン 2.x および 3.x	• ビュー • 一般 • 呼び出し • 拡張呼び出しオプション • セキュリティー	
Microsoft Office バージョン 97、2000、 2003、および XP (Excel、PowerPoint、および Word)	• ツールバー • オプション • テンプレート • 保管オプション • ユーザー情報 (ツール・オプションの下)	ソース・コンピューターの Microsoft Office のバージョンがターゲット・コンピューターのバージョンと異なる場合、Word および PowerPoint アプリケーションのツールバーとテンプレートの設定は移行されません。 「オプション」設定の「互換性」の設定は移行されません。

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook バージョン 98、 2000、2003、および XP	• フォルダー • PST ファイル (メール・ファイル) • ショートカット • ツールバー • ビュー • カスタマイズ・オプション • アドレス帳 • アカウント • 設定/E メール・オプション • トラッキング・オプション • カレンダー・オプション • メール・デリバリー • リソース・スケジューリング	Microsoft Outlook と Internet Explorer は同時に移行してください。 Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。 Microsoft Outlook が Windows 98 または NT 4.0 から Windows 2000 または Windows XP に移行された場合、またはターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、次の操作を行ってから、ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を始動してください。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. 「コントロール パネル」で「メール」をダブルクリックします。 7. 「データ・ファイル...」をクリックします。 8. 「設定...」をクリックします。 9. 「Outlook.pst が無効です.....」メッセージが表示される場合は、OK をクリックします。 10. 次のディレクトリーに進みます。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥ Local Settings¥Application Data¥Microsoft¥Outlook と進み、Outlook.pst を選択します。 (%USERNAME% は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 11. 「メールのセットアップ」を閉じます。 12. Microsoft Outlook を始動します。 ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を始動する前にこの手順を完了していない場合は、Microsoft Microsoft Outlook を移行し直し、あらためてこの手順を実行しなければならなくなります。

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook Express バージョン 5.x および 6.x	• 一般 • メール送信フォーマット • ニュース送信フォーマット • 送信 • 読み取り • セキュリティー • 拡張オプション • アドレス帳	Microsoft Outlook Express と Internet Explorer は同時に移行してください。Microsoft Outlook と Microsoft Outlook Express は同時に移行できません。 アドレス帳が移行されなかった場合は、次のようにします。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. Microsoft Outlook Express 5.x/6.x を始動します。 7. メニュー・バーで「ファイル」を選択します。 8. 「インポート」を選択します。次に「アドレス帳」を選択します。 9. 「アドレス帳」ファイル (*.wab) を次のように指定します。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥Application Data¥Microsoft¥address book¥%SOURCEUSERNAME%.wab (%SOURCEUSERNAME% は、ソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) 10. 「メッセージのインポート」ウィンドウを閉じます。 アドレス帳のフォルダーは移行されません。これは Outlook Express の制約事項です。詳しくは、http://support.microsoft.com/default.aspx?scid= kb;en-us;268716 を参照してください。
Microsoft Project バージョン 98、2000、および 2002	• ツールバー • 設定 • 保管オプション • ファイル場所 • 最新の文書	
Microsoft Visio バージョン 2000 および 2002	• ビュー • ツールバー • カスタマイズ / オプション • 一般 • 作図 • 設定 • 拡張オプション	

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
MSN Messenger バージョン 5.x および 6.x	• ツール • 個人情報 • メッセージ • プライバシー • 一般 • アカウント • 接続	
Netscape Navigator バージョン 6.x および 7.x	• 外観 • フォント • カラー • ナビゲーター • ヒストリー • 言語 • スマート・ブラウザー • インターネット検索 • コンポーザー • 改ページ設定 • メールおよびニュース・グループ • メッセージ表示 • メッセージ構成 • インスタント・メッセージング • アドレッシング • Cookies • パスワード	Netscape Navigator を Windows 98 または NT 4.0 から Windows 2000 または Windows XP へと移行している場合は、以下の手順を実行します。 1. 移行を開始する前に、ターゲット・コンピューターで「Mozilla」の「Profiles」フォルダーを見つけます。このフォルダーは C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ の中にあります。(ここで、 %USERNAME%は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) このフォルダーの名前を「SMABACK」に変更します。 2. Netscape を移行します。 3. ターゲット・コンピューターをリブートします。次に Netscape を始動します。 4. 「メニュー」バーで「編集」を選択します。 5. 「設定」を選択します。 6. 「カテゴリー」で、「詳細」を選択します。 7. 「キャッシュ」を選択します。 8. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」に変更します (xxxxx には、ソース側と同じ名前を入力します)。 9. 「設定」を閉じます。 10. Netscape Mail を始動します。「メニュー」バーで「編集」を選択します。 11. 「Mail & Newsgroups アカウントの設定」を選択します。 12. 「サーバ設定」を選択します。 13. 「ローカル ディレクトリ」名を「C:¥Windows¥Application Data¥...」から「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 14. 「ローカル フォルダ」を選択します。次に「アカウント設定」を選択します。 15. 「ローカル ディレクトリ」名「C:¥Windows¥Application Data¥...」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 16. すべての Netscape アプリケーションを再始動します。

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Netscape Navigator、バージョン 6.x および 7.x (続き)		ターゲット・コンピューターへのログオンに使用したユーザー名がソース・コンピューターへのログオンに使用したものと異なる場合、移行を開始する前に、次の手順を実行します。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. 移行を行う前に、ターゲット・コンピューターで「Mozilla」の「Profiles」フォルダーを見つけます。このフォルダーは C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ の中にあります。(ここで、 %USERNAME%は、ログオンに使用しているユーザー・アカウント名です。) このフォルダーの名前を「SMABACK」に変更します。 7. Netscape を移行します。 8. ターゲット・コンピューターをリブートします。 9. 「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」を開きます (xxxxx には、ソース側と同じ名前を選択します)。 10. 「メニュー」バーで「編集」を選択します。 11. 「設定」を選択します。 12. 「カテゴリ」で「詳細」を選択します。 13. 「キャッシュ」を選択します。 14. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% ¥Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥ xxxxx.slt」に変更します (xxxxx には、ソース側と同じ名前を選択します)。 15. 「prefs.js」ファイルを右クリックし、「編集」を選択します。 16. 「C:¥Documents and Settings¥ %SOURCEUSER%¥¥」を検索して、すべての %SOURCEUSER% を %USERNAME% と置き換えます (%SOURCEUSER% はソース・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名、%USERNAME% はターゲット・コンピューターへのログオンに使用しているユーザー・アカウント名)。 17. Netscape を開始します。
Norton Antivirus バージョン 7.x	• 更新スケジュール • スキャン・スケジュール • 履歴 • 拡張オプション • ランダム・オプション	

表 5. 移行可能なアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Symantec Antivirus 9.x	• 更新スケジュール • スキャン・スケジュール • 履歴 • 拡張オプション • ランダム・オプション	
WinZip バージョン 8.x	• オプション • 列 • 一般 • セクション • ボタン • システム・デフォルト・フォルダー • エクスプローラー機能拡張 • コンテキスト・メニュー・コマンド • その他	

付録 B. トラブルシューティング

このセクションでは、コンピューター環境を移行するときに起こりうる問題に対する解決策を説明します。

表 6.

問題	解決策
移行ファイルが作成できない	ソース・コンピューターのディスクに十分なフリー・スペースがない場合は、次のようにします。 移行ファイルを十分なフリー・スペースがあるネットワーク・ドライブ、または USB ハード・ディスクのような取り外し可能メディアに保管します。
PC から PC への移行が実行できない	ソース・コンピューターとターゲット・コンピューターで接続が確立されていない場合は、次のようにします。 コンピューター同士がイーサネット・ケーブルでしっかりと接続されていることを確認します。 両方のコンピューターのすべてのファイヤーウォール・アプリケーションが無効に設定されているか、またはコンピューター間で SMA が通信できるように構成されていることを確認します。 ターゲット PC のサーバー・サービスが開始済みであることを確認します。この確認をするためには、「コントロール・パネル」から「管理ツール」を開き「サービス」をダブルクリックし「サーバー」を見付けます。

表 6. (続き)

問題	解決策
ターゲット主導による移行が実行できない	• Windows のエラー・メッセージ「ネットワークパスが見つかりません」が出る場合は、次のようにします。 ターゲット・コンピューター上で「**Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有**」が使用可能に設定されていることを確認します。この確認をするためには、「コントロール パネル」を開いて「ネットワーク接続」をダブルクリックし、ソース・コンピューターと接続に使用する「ローカル エリア接続」の「プロパティ」を右クリックし、「**Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有**」チェック・ボックスを選択します。 • 「リモート サーバーは一時停止されているか、起動途中です。」エラーが発生する場合は、次のようにします。 ターゲット・コンピューターの Server サービスがまだ開始されていません。「コントロール パネル」から「管理ツール」を開き「サービス」をダブルクリックし「Server」の状態を確認してください。ターゲット主導による移行を行うには「Server」サービスの状態が「開始」である必要があります。
ファイルが移行できない	• ファイル・パスとファイル名を足して 250 文字を超える場合は、次のようにします。 短いファイル名またはパス名を使用する。 • ターゲット・ドライブが存在しない場合は、次のようにします。 「選択したファイルの確認」ウィンドウで、ターゲットに存在するドライブへファイルの宛先ロケーションを変更してください。または commands.xml ファイル内で宛先を指定します。あるいは、 移行対象のファイルを「マイ ドキュメント」フォルダーに移動してから移行を行ってください。

表 6. (続き)

問題	解決策
ユーザー・アカウントが移行できない	• ソース・コンピューター上にドメイン・ユーザー・アカウントが見つからない場合は、次のようにします。 コンピューターがネットワークに接続されていることを確認します。 ソース・コンピューターからプライマリー・ドメイン・サーバーへアクセスできることを確認します。 • ドメイン・ユーザーの設定がターゲット・コンピューターに移行できない場合は、次のようにします。 ターゲット・コンピューターがプライマリー・ドメイン・サーバーに登録済みであることを確認します。 • ターゲット・コンピューターに SMA が作成したローカル・ユーザー・アカウントの Windows ログオン・パスワードについて。 ユーザー・アカウント名が SBCS 文字の場合は、Windows のログオン・パスワードは自動的にユーザー・アカウント名と同じものが設定されます。 ユーザー・アカウント名に DBCS 文字が含まれている場合は、Windows のログオン・パスワードは自動的に「Passw0rd」に設定されます。
デスクトップの設定が移行できない	デスクトップの設定の一部が移行できない。 SMA を使用して移行できるデスクトップ設定のリストについては、『第 3 章 GUI を使用した移行の実行』のステップ 28 (27 ページ) を参照してください。

表 6. (続き)

問題	解決策
アプリケーションの設定が移行できない	• 対象となるアプリケーションがターゲット・コンピューターにインストールされていない。 SMA はアプリケーションをインストールしません。移行開始前にアプリケーションをインストールしておく必要があります。 • アプリケーションの設定の一部しか移行されない。 それぞれのアプリケーションごとの移行可能な設定については、 75 ページの『付録 A. 移行可能なアプリケーション設定』を参照してください。
ネットワークの設定が移行できない	• コンピューター名およびドメインとワークグループ設定を同時に移行しようとした。 このような移行を行うには、次のようにします。 1. まずコンピューター名設定を移行し、コンピューターをリブートします。 2. ドメインおよびワークグループ設定を移行し、コンピューターをリブートします。 3. 残りの設定を移行します。 • ソース・コンピューターで静的 IP アドレスを使用している。 ソース・コンピューターをネットワークから切断してから、移行を開始します。
プリンターの設定が移行できない	• LPR タイプのプリンターを使用している。 以下の Microsoft ツールのいずれかから prnadmin.dll をインストールします。 – ″Windows 2000 Server Resource Kit Tools″ for Windows 2000 – ″Windows 2003 Server Resource Kit Tools″ for Windows XP

付録 C. ヘルプおよび技術援助の入手

ヘルプ、サービス、技術支援、または Lenovo 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、Lenovo がさまざまな形で提供している支援をご利用いただけます。この付録では、Lenovo および Lenovo 製品に関する追加情報を入手するためのアクセス先、問題が発生した場合の処置の取り方、および保守が必要な場合の連絡先を示しています。

依頼する前に

連絡する前に、以下の手順を実行して、必ずお客様自身で問題の解決を試みてください。

- ケーブルがすべて接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックしてコンピューターがオンになっていることを確認します。
- コンピューターの資料に記載されているトラブルシューティングのための提案を適用します。
- コンピューターに付属の診断ツールを使用します。診断ツールに関する情報は、ご使用のコンピューターの「*ハードウェア保守マニュアル*」および「*使用上の注意と問題判別*」にあります。
- 技術情報、ヒント、助言、および新規のデバイス・ドライバーを調べたり、情報の要求を出したい場合は、Support Web サイト (http://www.lenovo.com/think/support) にアクセスしてください。

多くの問題は、コンピューターやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載のトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。コンピューターに付属の説明資料にも、お客様が実行できる診断テストについての説明があります。大部分の PC システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順およびエラー・メッセージとエラー・コードの説明を含む情報が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

資料の使用

Lenovo システムおよびプリインストール・ソフトウェアに関する情報は、システムに付属の資料に記載されています。資料には、印刷された説明書、オンライン・ブック、README ファイル、およびヘルプ・ファイルがあります。診断プログラムの使用方法については、システム資料にあるトラブルシューティングに関する情報を参照してください。トラブルシューティング情報または診断プログラムを使用した結果、デバイス・ドライバーの追加や更新、あるいは他のソフトウェアが必要になることがあります。Lenovo は WWW に、最新の技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーおよび更新をダウンロードできるページを設けています。これらのページにアクセスするには、http://www.lenovo.com/think/support に進み、説明に従ってください。

ヘルプおよび情報を WWW から入手する

Lenovo 製品、サービス、およびサポートの最新情報は、Lenovo Web サイト http://www.lenovo.com/think/support にあります。

付録 D. 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、レノボ・ジャパンの営業担当員にお尋ねください。本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品, プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

Intellectual Property Licensing
Lenovo Group Ltd.
500 Park Offices Drive, Hwy. 54
Research Triangle Park, NC 27709
U.S.A.
Attention: Lenovo Director of Licensing

Lenovo およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書におけるいかなる記述も、Lenovo あるいは第三者の知的所有権に基づく明示または黙示の使用許諾と補償を意味するものではありません。本書に記載されている情報はすべて特定の環境で得られたものであり、例として提示されるものです。他の稼働環境では、結果が異なる場合があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

付録 E. 商標およびライセンス

以下は、Lenovo Corporation の商標です。

Lenovo
Rescue and Recover
Client Security Solution
ThinkPad
ThinkCentre
ThinkVantage

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM (ライセンスに基づき使用しています。)
Approach
Lotus
Lotus Notes
Lotus Organizer
Freelance Graphics
SmartSuite
Word Pro
1-2-3

Microsoft、Windows、Outlook および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ThinkVantage System Migration Assistant は、GNU LGPL ライセンスの下でライセンス交付を受けた 7-Zip プログラムの一部を使用しています。このプログラムの詳細とソース・コードについては、http://www.7-zip.org/ にアクセスしてください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

［ア行］

［カ行］

［サ行］

［タ行］

［ナ行］

［ハ行］

［マ行］

［ヤ行］

［ラ行］

A

I

L

M

N

P

S

W